# 目　次

## 入学試験要項


Ⅰ　総合福祉学研究科修士課程（一般選抜）…… 1
Ⅱ　総合福祉学研究科修士課程（社会人選抜）…… 5
Ⅲ　総合福祉学研究科修士課程（特別選抜（学内））…… 9
Ⅳ　総合福祉学研究科博士課程（一般選抜）…… 13
Ⅴ　総合福祉学研究科博士課程（社会人選抜）…… 17
Ⅵ　出願書類提出注意事項一覧〔修士課程〕…… 21
Ⅶ　出願書類提出注意事項一覧〔博士課程〕…… 23
Ⅷ　個別入学資格審査について …… 25
Ⅸ　東北福祉大学大学院のポリシー
（総合福祉学研究科 社会福祉学専攻・福祉心理学専攻）…… 27
Ⅹ　課程修了要件 …… 34
Ⅺ　学　　位 …… 34
Ⅻ　開設授業科目一覧 …… 35
ⅩⅢ　長期履修学生規程 …… 39


## 入学試験過去問題

### 入学試験過去問題（関連科目）


修士課程　社会福祉学専攻（一般選抜）…… 1
修士課程　社会福祉学専攻（社会人選抜）…… 3
修士課程　社会福祉学専攻（特別選抜）…… 4
修士課程　福祉心理学専攻福祉心理学分野（一般選抜）…… 5
修士課程　福祉心理学専攻臨床心理学分野（一般選抜）…… 5
修士課程　福祉心理学専攻臨床心理学分野（社会人選抜）…… 12
修士課程　福祉心理学専攻臨床心理学分野（特別選抜）…… 13
博士課程　社会福祉学専攻 …… 15


### 入学試験過去問題（英語）


修士課程　社会福祉学専攻（一般選抜）…… 1
修士課程　福祉心理学専攻（一般選抜）…… 5
博士課程　社会福祉学専攻（一般選抜・社会人選抜共通）…… 13


## 出願書類

入学志願票
志望理由書
研究計画書
職務経歴書（該当者のみ）
受験票・写真票
住　所　票
入学受験料払込用紙

## 大学案内図

2025年度

# 東北福祉大学大学院
# 入 学 試 験 要 項
## 〈一般選抜〉

## 総合福祉学研究科
## （ 修 士 課 程 ）

社会福祉学専攻

福祉心理学専攻

# Ⅰ 総合福祉学研究科修士課程（一般選抜）

## 1 募集人員等

| 専攻名 | 研究・分野 | 入学定員 | 募集人員 | | 修業年限 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | Ⅰ期 | Ⅱ期 | |
| 社会福祉学専攻 | 社会福祉学 | 10名 | 2名 | 2名 | 2年 |
| 福祉心理学専攻 | 福祉心理学分野 | 10名 | 2名 | 2名 | 2年 |
| | 臨床心理学分野 | 10名 | 5名 | 2名 | 2年 |

## 2 出願資格

⑴ 大学を卒業した者、または2025年3月卒業見込みの者。
⑵ 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者、または2025年3月学士の学位を授与される見込みの者。
⑶ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者、または2025年3月までに修了見込みの者。
⑷ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者、または2025年3月までに修了見込みの者。
⑸ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者、または2025年3月修了見込みの者。
⑹ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者、または2025年3月までに修了見込みの者。
⑺ 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示5号）。
⑻ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。
⑼ 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者（入学時）。

**【注1】 外国の国籍を有する者は、日本学生支援機構が実施する日本留学試験を受験し、「日本語」の成績が200点以上であるか、もしくは日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験を受験し、N2（旧2級）以上に合格している必要があります。**

**【注2】 出願資格⑻〜⑼によって出願しようとする者は、出願資格審査を行うので、事前に教務部・大学院事務室へ照会してください。**

## 3 出願書類

⑴ 入学志願票（本学所定用紙）
⑵ 卒業（見込）証明書
⑶ 単位取得成績証明書
⑷ 学士の学位授与（見込）証明書〈出願資格⑵に該当する者〉
⑸「在留カード」の両面写し〈外国籍の場合〉
⑹ 卒業論文（写）〈作成してない場合は提出不要〉
⑺ 志望理由書〈2,000字程度〉
※自筆または、パソコンも可。パソコン作成の場合は、P21を参照のこと。
志望理由書は、以下の項目を基本として自由に作成してください。
① 志望動機
② 将来の進路志望
③ 入学後の目標と抱負
⑻ 研究計画書〈2,000字程度〉
※自筆または、パソコンも可。パソコン作成の場合は、P21を参照のこと。
研究計画書は、以下の項目を基本として作成してください。
① 研究テーマ
② 研究目的
③ 研究構想・計画（研究方法・手順およびどこまで研究を進めるのかを含める）
⑼ TOEFL または TOEIC のスコア＜試験科目（外国語（英語））の免除を希望する者＞
⑽ 住所票（本学所定用紙）
⑾ 振込受付証明書（本学所定用紙）

## 4 出 願 手 続

出願書類と入学受験料30,000円を出願期間中に払込取扱票にて納入してください。（本学卒業生等の入学受験料は15,000円）

## 5 選 抜 方 法

選抜方法は、筆記試験（専門科目・英語）、口述試験および書類審査により行う。

なお、TOEFL スコアが iBT70点、PBT523点、TOEIC650点以上のスコア原本を事前提出した受験者については、外国語（英語）の試験を免除します。（詳細については、出願書類提出注意事項一覧を確認してください。）

※英語は英和辞書のみ持込み可（**電子辞書は不可**）

## 6 試験科目および試験時間

| 研究科・専攻 | 試 験 時 間 | 科目 |
|---|---|---|
| 総合福祉学研究科<br>社会福祉学専攻 | 午前 9 時15分～ | 入室・説明 |
| | 午前 9 時30分～午前11時 | 社会福祉学・社会福祉関連科目 |
| | 午前11時30分～午後12時30分 | 英語 |
| | 午後12時30分～午後 1 時30分 | 昼食・休憩 |
| | 午後 1 時30分～ | 口述試験 |

| 研究科・専攻・分野 | 試 験 時 間 | 科目 |
|---|---|---|
| 総合福祉学研究科<br>福祉心理学専攻<br>〔福祉心理学分野〕<br>〔臨床心理学分野〕 | 午前 9 時15分～ | 入室・説明 |
| | 午前 9 時30分～午前11時 | 心理学・心理関連科目 |
| | 午前11時30分～午後12時30分 | 英語 |
| | 午後12時30分～午後 1 時30分 | 昼食・休憩 |
| | 午後 1 時30分～ | 口述試験 |

【受験上の注意事項】

⑴ 受験票を必ず持参してください。紛失あるいは忘れた場合は、試験会場入室前に入学試験本部へ申し出てください。

⑵ 試験当日は、午前 9 時15分までに指定された試験会場に入室し、着席してください。

⑶ やむを得ない事情による遅刻は、試験開始後20分までは受験を認めますが、試験時間の延長は行いません。

⑷ 関連科目、英語、口述試験のいずれか 1 つでも受験しなかった場合は、受験を辞退したものとして取り扱います。（ただし、英語の試験を免除された者は、関連科目と口述試験を対象とします。）

⑸ 受験票は必ず携帯し、試験中は机上右側に置いてください。また試験監督者の請求があった場合は、提示してください。

⑹ 英語の試験時は、**英和辞書のみ持込み可**ですが、**電子辞書の持込みは不可**とします。

⑺ 携帯電話等は、試験会場に入室する前に電源を切ってください。

⑻ 試験会場における受験者間の物品等の貸与は、一切認めませんので注意してください。

⑼ 試験会場ではすべて試験監督者の指示に従ってください。

⑽ 入学試験等に関する問い合わせについては、教務部・大学院事務室へ連絡ください。

## 7 試 験 会 場

「東北福祉大学国見キャンパス」

仙台市青葉区国見 1-8-1

ＴＥＬ　022-233-3111㈹　　ダイヤルイン　022-717-3315（教務課）

## 8 出願上の注意事項

⑴ 出願書類はすべて郵送してください（出願書類提出用封筒にて郵送）。郵便事情を考慮しそれぞれの出願期間内に必着するよう早めに送付してください（**窓口への持参は不可とします**）。

⑵ 出願書類に記載する氏名・生年月日は、住民票または在留カードの記載どおりに記入してください。

⑶ 入学志願票に**必ず署名捺印を**してください。

なお、外国籍を有する者で入学後も通称名の使用を希望する場合は、住民票の通称名を記入してください。

(4) 出願書類提出後の志望研究科専攻・研究コース・研究分野の変更は原則認めません。
(5) 一旦受理した書類・入学受験料は、理由の如何にかかわらず返還しません。
(6) 受験する際に特別の配慮を必要とする場合は、出願書類提出前に必ず教務部・大学院事務室に問い合わせください。
(7) 願書提出後の照会・連絡は、氏名・志望研究科専攻・研究コース・研究分野名および受験番号を明記し、返信用封筒または葉書（宛名を明記、切手を貼付すること）を同封の上、教務部・大学院事務室へ照会ください。

## 9 試験日および出願期間日程等

| 入試種別 | 試験日 | 出願期間 | 合格発表 | 入学手続期間 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ期 | 2024年11月 2 日(土) | 2024年 9 月30日(月)<br>～<br>2024年10月24日(木) | 2024年11月12日(火) | 2024年11月12日(火)<br>～<br>2024年11月29日(金) |
| Ⅱ期 | 2025年 2 月 8 日(土) | 2025年 1 月 6 日(月)<br>～<br>2025年 1 月30日(木) | 2025年 2 月14日(金) | 2025年 2 月14日(金)<br>～<br>2025年 2 月28日(金) |

〔注意事項〕
※合否に関する電話等の問い合わせには一切応じません。また、掲示による発表もありません。

## 10 学　　費

(1) 合格者は所定の入学手続締切日までに、振込用紙を使用し所定の口座「東北福祉大学」へ振込み、必要書類を郵送してください。
(2) 締切日までに入学手続を完了しない場合は入学不可となります。締切日当日の消印および受領物は有効とします。

（2025年度用）

| | | | 本学卒業生等 | | | 本学卒業生等以外からの入学者 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 社会福祉学専攻 | 福祉心理学専攻 | | 社会福祉学専攻 | 福祉心理学専攻 | |
| | | | | 福祉心理学分野 | 臨床心理学分野 | | 福祉心理学分野 | 臨床心理学分野 |
| ※入学申込金（入学金） | | | | | | 100,000円 | 100,000円 | 100,000円 |
| 授業料 | | | 478,000円 | 478,000円 | 478,000円 | 478,000円 | 478,000円 | 478,000円 |
| 施設設備資金 | | | 58,000円 | 58,000円 | 58,000円 | 117,500円 | 117,500円 | 117,500円 |
| 実験・実習・研究経費 | | | | | 35,000円 | | | 35,000円 |
| 厚生費 | | | 20,000円 | 20,000円 | 20,000円 | 20,000円 | 20,000円 | 20,000円 |
| 後援会費 | | | 24,200円 | 24,200円 | 24,200円 | 24,200円 | 24,200円 | 24,200円 |
| 納入方法 | 全納方式 | | 580,200円 | 580,200円 | 615,200円 | 739,700円 | 739,700円 | 774,700円 |
| | 分納方式 | 入学時 | 341,200円 | 341,200円 | 376,200円 | 500,700円 | 500,700円 | 535,700円 |
| | | 9 月 | 239,000円 | 239,000円 | 239,000円 | 239,000円 | 239,000円 | 239,000円 |

※ 入学申込金は入学許可証が発行された時点で入学金として振替えます。

（注）① 上記以外に実習を行う場合などは実習費を別途徴収します。
② 諸納金は「全納方式」もしくは「分納方式」のどちらかを選択し、納入します。

**「全納方式」**
諸納金一括納入

**「分納方式」**
諸納金の内後期授業料を除いた全額を納入
後期授業料は2024年 9 月末日まで納入

③ 学費スライド制の適用について、次年度以降はスライド制を適用により改訂します。
④ 実験・実習・研究経費は福祉心理学専攻臨床心理学分野のみ納入になります。

**【入学辞退について】**
合格者で入学手続を完了した者が、止むを得ない事情で入学を辞退する場合は、本学教務部・大学院事務室へ連絡のうえ、**2025年 3 月31日(月)16時00分まで入学辞退届（本学所定用紙）**を提出した場合に限り、入学申込金（入学金）を除いたその他の諸納金を返還します。

なお、入学辞退届用紙は教務部・大学院事務室宛に請求し、提出は教務部・大学院事務室へ持参または速達便で郵送してください。郵送の場合は締切日必着とします。

※本学卒業生等とは、以下の方をいいます。

①本学学部を卒業後、直ちに本学大学院に進学する方

②本学学部または大学院を過去に卒業または修了した方

③本学で現に雇用されている常勤の教職員

④本学の関連法人（社会福祉法人東北福祉会および医療法人社団東北福祉会）の職員であり、関連法人からリーダー養成の一環として推薦された方

⑤本学学生の実習受け入れ等に協力することについて本学との間で協定を締結した施設や団体の職員であり、当該施設等からリーダー養成の一環として推薦された方

⑥現に福祉や医療等の現場で仕事に携わっており、キャリア形成のため本学大学院の科目等履修生となり、スキルアップ講座または履修証明プログラムに参加した方

## 11 取得できる資格について

福祉心理学専攻臨床心理学分野では、臨床心理士受験資格に加えて、公認心理師受験資格を取得することができます。それぞれの資格については、【参考リンク】をご覧ください。

**ただし、公認心理師受験資格取得をめざすためには、大学院入学前に学部段階で所定の科目を修めて卒業していることが必要です。**

なお、所定の科目を履修したか否かについては、ご自身が、現在在学中の学部または卒業した学部にご確認ください。

**【参考リンク】**

・一般社団法人 日本臨床心理士会「臨床心理士とは」
www.jsccp.jp/person/

・公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士とは」
fjcbcp.or.jp/about/

・厚生労働省「公認心理師」
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html

## 12 大学院所在地（問い合わせ先）

〒989-3201
仙台市青葉区国見ケ丘 6-149-1
ＴＥＬ　022-727-2288　ＦＡＸ　022-728-6420
E-mail:graduate@tfu.ac.jp
http://www.tfu.ac.jp/

2025年度

# 東北福祉大学大学院
# 入 学 試 験 要 項
## 〈社会人選抜〉

## 総合福祉学研究科
## （ 修 士 課 程 ）

社会福祉学専攻

福祉心理学専攻
（福祉心理学分野）

## Ⅱ 総合福祉学研究科修士課程（社会人選抜）

### 1 募集人員等

| 専　攻　名 | 研究・分野 | 入学定員 | 募集人員 | | 修業年限 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | Ⅰ期 | Ⅱ期 | |
| 社会福祉学専攻 | 社会福祉学 | 10名 | 1名 | 1名 | 2年 |
| 福祉心理学専攻 | 福祉心理学分野 | 10名 | 1名 | 1名 | 2年 |

### 2 出願資格

社会人入学試験に出願できる者は、原則として3年以上の社会的実務経験を有する者（入学時）で、下記の⑴～⑽のいずれかに該当する者とします。

また、主婦の場合は職業を有していなくとも差し支えありません。

⑴ 大学を卒業した者。

⑵ 本学学部に社会人特別選抜で入学し卒業した者、または2025年3月卒業見込みの者。

⑶ 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者、または2025年3月学士の学位を授与される見込みの者。

⑷ 外国において学校教育における16年の課程を修了した者、または2025年3月までに修了見込みの者。

⑸ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者。または2025年3月までに修了見込みの者。

⑹ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者、または2025年3月修了見込みの者。

⑺ 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者、または2025年3月までに修了見込みの者。

⑻ 文部科学大臣が指定した者（昭和28年文部省告示第5号）。

⑼ 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者。

⑽ 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者（入学時）。

**【注１】** 外国の国籍を有する者は、日本学生支援機構が実施する日本留学試験を受験し、「日本語」の成績が200点以上であるか、もしくは日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験を受験し、N2（旧２級）以上に合格している必要があります。

**【注２】** 社会人選抜入学試験に出願予定の者で、出願資格⑼～⑽によって出願しようとする者は、出願資格審査を行うので、事前に教務部・大学院事務室へ照会してください。

**【注３】** 社会的実務経験とは、企業・官公庁等における勤務（臨時雇用でも継続的なものであればよい）のほかに、家事・家業に継続して従事したことも含む。

### 3 出願書類

⑴ 入学志願票（本学所定用紙）

⑵ 職務経歴書（本学所定用紙）

⑶ 卒業（見込）証明書

⑷ 単位取得成績証明書

⑸ 学士の学位授与（見込）証明書〈出願資格の⑶に該当する者〉

⑹ 「在留カード」の両面写し（外国籍の場合）

⑺ 卒業論文（写）〈作成していない場合は提出不要〉

⑻ 志望理由書〈2,000字程度〉

※自筆または、パソコンも可。パソコン作成の場合は、P21を参照のこと。

志望理由書は、以下の項目を基本として自由に作成してください。

① 志望動機

② 将来の進路志望
③ 入学後の目標と抱負

⑼ 研究計画書〈2,000字程度〉
※自筆または、パソコンも可。パソコン作成の場合は、P21を参照のこと。
研究計画書は、以下の項目を基本として作成してください。
① 研究テーマ
② 研究目的
③ 研究構想・計画（研究方法・手順およびどこまで研究を進めるのかを含める）

⑽ 住所票（本学所定用紙）
⑾ 振込受付証明書（本学所定用紙）

## 4 出 願 手 続

出願書類と入学受験料30,000円を出願期間中に払込取扱票にて納入してください。（本学卒業生等の入学受験料は15,000円）

## 5 選 抜 方 法

選抜方法は、小論文、口述試験および書類審査により行う。

## 6 試験科目および試験時間

| 研究科・専攻・分野 | 試 験 時 間 | 科目 |
|---|---|---|
| 総合福祉学研究科<br>・社会福祉学専攻<br>・福祉心理学専攻<br>（福祉心理学分野） | 午前 9 時15分～ | 入室・説明 |
| | 午前 9 時30分～午前10時30分 | 小論文 |
| | 午前11時00分～ | 口述試験 |

【受験上の注意事項】
⑴ 受験票を必ず持参してください。紛失あるいは忘れた場合は、試験会場入室前に入学試験本部へ申し出てください。
⑵ 試験当日は、午前 9 時15分までに指定された試験会場に入室し、着席してください。
⑶ やむを得ない事情による遅刻は、試験開始後20分までは受験を認めますが、試験時間の延長は行いません。
⑷ 小論文、口述試験のいずれか 1 つでも受験しなかった場合は、受験を辞退したものとして取り扱います。
⑸ 受験票は必ず携帯し、試験中は机上右側においてください。また試験監督者の請求があった場合は提示してください。
⑹ 携帯電話等は、試験会場に入室する前に電源を切ってください。
⑺ 試験会場における受験者間の物品等の貸与は、一切認めませんので注意してください。
⑻ 試験会場ではすべて試験監督者の指示に従ってください。
⑼ 入学試験等に関する問い合わせについては、教務部・大学院事務室へ連絡ください。

## 7 試 験 会 場

「東北福祉大学国見キャンパス」
仙台市青葉区国見 1-8-1
ＴＥＬ 022-233-3111㈹ ダイヤルイン 022-717-3315（教務課）

## 8 出願上の注意事項

⑴ 出願書類はすべて郵送してください（出願書類提出用封筒にて郵送）。郵便事情を考慮しそれぞれの出願期間内に必着するよう早めに送付してください（**窓口への持参は不可とします**）。
⑵ 出願書類に記載する氏名・生年月日は、住民票または在留カードの記載どおりに記入してください。
なお、外国籍を有する者で入学後も通称名の使用を希望する場合は、住民票の通称名を記入してください。
⑶ 入学志願票に**必ず署名捺印を**してください。
⑷ 出願書類提出後の志望研究科専攻・研究コース・研究分野の変更は原則認めません。
⑸ 一旦受理した書類・入学受験料は、理由の如何にかかわらず返還しません。

⑹　受験する際に特別の配慮を必要とする場合は、出願書類提出前に必ず教務部・大学院事務室に問い合わせください。

⑺　願書提出後の照会・連絡は、氏名・志望研究科専攻名・研究コース・研究分野名および受験番号を明記し、返信用封筒または葉書（宛名を明記し、切手を貼付すること）を同封の上、教務部・大学院事務室へ照会ください。

## 9 試験日および出願期間日程等

| 入試種別 | 試験日 | 出願期間 | 合格発表 | 入学手続期間 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ期 | 2024年11月 2 日㈯ | 2024年 9 月30日㈪<br>～<br>2024年10月24日㈭ | 2024年11月12日㈫ | 2024年11月12日㈫<br>～<br>2024年11月29日㈮ |
| Ⅱ期 | 2025年 2 月22日㈯ | 2025年 1 月27日㈪<br>～<br>2025年 2 月18日㈫ | 2025年 3 月 4 日㈫ | 2025年 3 月 4 日㈫<br>～<br>2025年 3 月17日㈪ |

〔注意事項〕

※1　Ⅰ期・Ⅱ期入試は両専攻行います。

※2　合否に関する電話等の問い合わせには一切応じません。また、掲示による発表もありません。

## 10 学　　費

⑴　合格者は所定の入学手続締切日までに、振込用紙を使用し所定の口座「東北福祉大学」へ振込み、必要書類を郵送してください。

⑵　締切日までに入学手続を完了しない場合は入学不可となります。締切日当日の消印および受領物は有効とします。

（2025年度用）

| | | | 本学卒業生等 | | 本学卒業生等以外からの入学者 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 社会福祉学専攻 | 福祉心理学専攻<br>福祉心理学分野 | 社会福祉学専攻 | 福祉心理学専攻<br>福祉心理学分野 |
| ※入学申込金（入学金） | | | | | 100,000円 | |
| 授業料 | | | 478,000円 | | 478,000円 | |
| 施設設備資金 | | | 58,000円 | | 117,500円 | |
| 厚生費 | | | 20,000円 | | 20,000円 | |
| 後援会費 | | | 24,200円 | | 24,200円 | |
| 納入方法 | 全納方式 | | 580,200円 | | 739,700円 | |
| | 分納方式 | 入学時 | 341,200円 | | 500,700円 | |
| | | 9　月 | 239,000円 | | 239,000円 | |

※　入学申込金は入学許可証が発行された時点で入学金として振替えます。

（注）①　前頁表以外に実習を行う場合などは実習費を別途徴収します。

②　諸納金は「全納方式」もしくは「分納方式」のどちらかを選択し、納入します。

**「全納方式」**

諸納金一括納入

**「分納方式」**

諸納金の内後期授業料を除いた全額を納入

後期授業料は2025年 9 月末日まで納入

③　学費スライド制の適用について、次年度以降はスライド制を適用により改訂します。

**【入学辞退について】**

合格者で入学手続を完了した者が、止むを得ない事情で入学を辞退する場合は、本学教務部・大学院事務室へ連絡のうえ、**2025年 3 月31日㈪16時00分まで入学辞退届（本学所定用紙）**を提出した場合に限り、入学申込金（入学金）を除いたその他の諸納金を返還します。

なお、入学辞退届用紙は教務部・大学院事務室宛に請求し、提出は教務部・大学院事務室へ

## 総合福祉学研究科（修士課程）〈社会人選抜〉

持参または速達便で郵送してください。郵送の場合は締切日必着とします。

※本学卒業生等とは、以下の方をいいます。

①本学学部を卒業後、直ちに本学大学院に進学する方

②本学学部または大学院を過去に卒業または修了した方

③本学で現に雇用されている常勤の教職員

④本学の関連法人（社会福祉法人東北福祉会および医療法人社団東北福祉会）の職員であり、関連法人からリーダー養成の一環として推薦された方

⑤本学学生の実習受け入れ等に協力することについて本学との間で協定を締結した施設や団体の職員であり、当該施設等からリーダー養成の一環として推薦された方

⑥現に福祉や医療等の現場で仕事に携わっており、キャリア形成のため本学大学院の科目等履修生となり、スキルアップ講座または履修証明プログラムに参加した方

## 11 大学院所在地（問い合わせ先）

〒989-3201

仙台市青葉区国見ケ丘 6-149-1

ＴＥＬ　022-727-2288　ＦＡＸ　022-728-6420

E-mail:graduate@tfu.ac.jp

http://www.tfu.ac.jp/

2025年度

# 東北福祉大学大学院
# 入 学 試 験 要 項
## 〈特別選抜（学内）〉

## 総合福祉学研究科
## （ 修 士 課 程 ）

社会福祉学専攻

福祉心理学専攻

# Ⅲ 総合福祉学研究科修士課程（特別選抜（学内））

## 1 募集人員等

| 専攻名 | 研究・分野 | 入学定員 | 募集人員 | | 修業年限 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | Ⅰ期 | Ⅱ期 | |
| 社会福祉学専攻 | 社会福祉学 | 10名 | 2名 | 2名 | 2年 |
| 福祉心理学専攻 | 福祉心理学分野 | 10名 | 2名 | 2名 | 2年 |
| | 臨床心理学分野 | 10名 | 3名 | | 2年 |

## 2 出願資格

(1) 東北福祉大学の学部4年次に在学し、2025年3月卒業見込みの者で、以下の条件を満たしている者。

①学部3年次までに卒業に必要な修得科目数のうち、100単位以上を修得し、かつ、卒業要件総修得科目のうち「秀」「優」評価が $\frac{1}{2}$ 以上の者。

## 3 出願書類

(1) 入学志願票（本学指定用紙）
(2) 卒業見込証明書
(3) 単位取得成績証明書（3年次までの取得単位が記載されているもの）
※編・学士入学している者は、編・学士入学前の成績証明書1通を提出してください。
(4) 「在留カード」の両面写し〈外国籍の場合〉
(5) 卒業論文の素案要旨（400字詰め原稿用紙換算で10枚程度）
〈作成しない場合は提出不要〉
(6) 志望理由書〈2,000字程度〉
※自筆または、パソコンも可。パソコン作成の場合は、P21を参照のこと。
**志望理由書**は、以下の項目を基本として作成してください。
① **志望動機**
② **将来の進路志望**
③ **入学後の目標と抱負**
(7) 研究計画書〈2,000字程度〉
※自筆または、パソコンも可。パソコン作成の場合は、P21を参照のこと。
**研究計画書**は、以下の項目を基本として作成してください。
① **研究テーマ**
② **研究目的**
③ **研究構想・計画（研究方法・手順およびどこまで研究を進めるのかを含める）**
(8) 住所票（本学指定用紙）
(9) 振込受付証明書（本学指定用紙）

## 4 出願手続

出願書類と入学受験料15,000円を出願期間中に払込取扱票にて納入してください。

## 5 選抜方法

選抜方法は小論文、口述試験および書類審査により行う。

## 総合福祉学研究科（修士課程）〈特別選抜（学内）〉

### 6 試験科目および試験時間

| 研究科・専攻 | 試験時間 | 科目 |
|---|---|---|
| 総合福祉学研究科・社会福祉学専攻・福祉心理学専攻 | 午前９時15分～ | 入室・説明 |
| | 午前９時30分～午前10時30分 | 小論文 |
| | 午前11時～ | 口述試験 |

**【受験上の注意事項】**

⑴　受験票を必ず持参してください。紛失あるいは忘れた場合は、試験会場入室前に入学試験本部へ申し出てください。
⑵　試験当日は、午前９時15分までに指定された試験会場に入室し、着席してください。
⑶　やむを得ない事情による遅刻は、試験開始後20分までは受験を認めますが、試験時間の延長は行いません。
⑷　小論文、口述試験のいずれか１つでも受験しなかった場合は、受験を辞退したものとして取り扱います。
⑸　受験票は必ず携帯し、試験中は机上右側においてください。また試験監督者の請求があった場合は提示してください。
⑹　携帯電話等は、試験会場に入室する前に電源を切ってください。
⑺　試験会場における受験者間の物品等の貸与は、一切認めませんので注意してください。
⑻　試験会場ではすべて試験監督者の指示に従ってください。
⑼　入学試験等に関する問い合わせについては、教務部・大学院事務室へ連絡ください。

### 7 試 験 会 場

「東北福祉大学国見キャンパス」
仙台市青葉区国見1-8-1
ＴＥＬ　022-233-3111㈹　　ダイヤルイン　022-717-3315（教務課）

### 8 出願上の注意事項

⑴　出願書類はすべて郵送してください（出願書類提出用封筒にて郵送）。郵便事情を考慮し、それぞれの出願期間内に必着するよう早めに送付してください（**窓口への持参は不可とします**）。
⑵　出願書類に記載する氏名・生年月日は、住民票または在留カードの記載どおりに記入してください。
　なお、外国籍を有する者で入学後も通称名の使用を希望する場合は、住民票の通称名を記入してください。
⑶　入学志願票に**必ず署名捺印を**してください。
⑷　出願書類提出後の志望研究科専攻・研究コース・研究分野の変更は原則認めません。
⑸　一旦受理した書類・入学受験料は、理由の如何にかかわらず返還しません。
⑹　受験する際に特別の配慮を必要とする場合は、出願書類提出前に必ず教務部・大学院事務室に問い合わせください。
⑺　願書提出後の照会・連絡は、氏名・志望研究科専攻名・研究コース・研究分野名および受験番号を明記し、返信用封筒または葉書（宛名を明記し、切手を貼付すること）を同封の上、教務部・大学院事務室へ照会ください。

## 9 試験日および出願期間日程等

| 入試種別 | 試験日 | 出願期間 | 合格発表 | 入学手続期間 |
|---|---|---|---|---|
| Ⅰ期 | 2024年10月 5 日(土) | 2024年 9 月 2 日(月)<br>～<br>2024年 9 月26日(木) | 2024年10月15日(火) | 2024年10月15日(火)<br>～<br>2024年10月31日(木) |
| Ⅱ期 | 2025年 2 月22日(土) | 2025年 1 月27日(月)<br>～<br>2025年 2 月18日(火) | 2025年 3 月 4 日(火) | 2025年 3 月 4 日(火)<br>～<br>2025年 3 月17日(月) |

〔注意事項〕

※1　Ⅰ期入試は両専攻行います。Ⅱ期入試は、社会福祉学専攻と福祉心理学専攻福祉心理学分野のみとなります。

※2　合否に関する電話等の問い合わせには一切応じません。また、掲示による発表もありません。

## 10 学　　費

(1)　合格者は所定の入学手続締切日までに、振込用紙を使用し所定の口座「東北福祉大学」へ振込み、必要書類を郵送してください。

(2)　締切日までに入学手続を完了しない場合は入学不可となります。締切日当日の消印および受領物は有効とします。

（2025年度用）

| | | | 本学卒業生等 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 社会福祉学専攻 | 福祉心理学専攻 | |
| | | | | 福祉心理学分野 | 臨床心理学分野 |
| ※入学申込金（入学金） | | | | | |
| 授業料 | | | 478,000円 | 478,000円 | 478,000円 |
| 施設設備資金 | | | 58,000円 | 58,000円 | 58,000円 |
| 実験・実習・研究経費 | | | | | 35,000円 |
| 厚生費 | | | 20,000円 | 20,000円 | 20,000円 |
| 後援会費 | | | 24,200円 | 24,200円 | 24,200円 |
| 納入方法 | 全納方式 | | 580,200円 | 580,200円 | 615,200円 |
| | 分納方式 | 入学時 | 341,200円 | 341,200円 | 376,200円 |
| | | 9　月 | 239,000円 | 239,000円 | 239,000円 |

（注）①　上記以外に実習を行う場合などは実習費を別途徴収します。

②　諸納金は「全納方式」もしくは「分納方式」のどちらかを選択し、納入します。

**「全納方式」**

諸納金一括納入

**「分納方式」**

諸納金の内後期授業料を除いた全額を納入

後期授業料は2025年 9 月末日まで納入

③　学費スライド制の適用について、次年度以降はスライド制を適用により改訂します。

④　実験・実習・研究経費は福祉心理学専攻臨床心理学分野のみ納入になります。

**【入学辞退について】**

合格者で入学手続を完了した者が、止むを得ない事情で入学を辞退する場合は、本学教務部・大学院事務室へ連絡のうえ、**2025年 3 月31日(月)16時00分まで入学辞退届（本学所定用紙）**を提出した場合に限り、入学申込金（入学金）を除いたその他の諸納金を返還します。

なお、入学辞退届用紙は教務部・大学院事務室宛に請求し、提出は教務部・大学院事務室へ持参または速達便で郵送してください。郵送の場合は締切日必着とします。

## 総合福祉学研究科（修士課程）〈特別選抜（学内）〉

※本学卒業生等とは、以下の方をいいます。
①本学学部を卒業後、直ちに本学大学院に進学する方
②本学学部または大学院を過去に卒業または修了した方
③本学で現に雇用されている常勤の教職員
④本学の関連法人（社会福祉法人東北福祉会および医療法人社団東北福祉会）の職員であり、関連法人からリーダー養成の一環として推薦された方
⑤本学学生の実習受け入れ等に協力することについて本学との間で協定を締結した施設や団体の職員であり、当該施設等からリーダー養成の一環として推薦された方
⑥現に福祉や医療等の現場で仕事に携わっており、キャリア形成のため本学大学院の科目等履修生となり、スキルアップ講座または履修証明プログラムに参加した方

## 11 取得できる資格について

福祉心理学専攻（臨床心理学分野）では、臨床心理士受験資格に加えて、公認心理師受験資格を取得することができます。それぞれの資格については、【参考リンク】をご覧ください。

ただし、公認心理師受験資格取得をめざすためには、大学院入学前に学部段階で所定の科目を修めて卒業していることが必要です。

なお、所定の科目を履修したか否かについては、ご自身が、現在在学中の学部または卒業した学部にご確認ください。

**【参考リンク】**

・一般社団法人 日本臨床心理士会「臨床心理士とは」
www.jsccp.jp/person/
・公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士とは」
fjcbcp.or.jp/about/
・厚生労働省「公認心理師」
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html

## 12 大学院所在地（問い合わせ先）

〒989-3201
仙台市青葉区国見ケ丘 6-149-1
ＴＥＬ　022-727-2288　ＦＡＸ　022-728-6420
E-mail:graduate@tfu.ac.jp
http://www.tfu.ac.jp/

2025年度

# 東北福祉大学大学院
# 入 学 試 験 要 項
## 〈一般選抜〉

## 総合福祉学研究科
## （ 博 士 課 程 ）

社会福祉学専攻

# Ⅳ 総合福祉学研究科博士課程（一般選抜）

## 1 募集人員等

| 専　攻　名 | 入学定員 | 募集人員 | 標準修業年限 |
|---|---|---|---|
| 社会福祉学専攻 | 3 名 | 2 名 | 3 年 |

## 2 出願資格

⑴ 修士の学位または専門職学位を有する者、または2025年 3 月までに修士の学位または専門職学位を取得見込みの者。

⑵ 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、または2025年 3 月まで修士の学位または専門職学位に相当する学位を取得見込みの者。

⑶ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、または2025年 3 月まで修士の学位または専門職学位に相当する学位を取得見込みの者。

⑷ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、または2025年 3 月まで修士の学位または専門職学位に相当する学位を取得見込みの者。

⑸ 文部科学大臣が指定した者。

① 大学を卒業し、大学、研究所等において、 2 年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者。

② 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、または外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、 2 年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者。

⑹ 大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者。

**【注１】 外国の国籍を有する者は、日本学生支援機構が実施する日本留学試験を受験し、「日本語」の成績が200点以上であるか、もしくは日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験を受験し、N2（旧２級）以上に合格している必要があります。**

**【注２】 出願資格⑸～⑹によって出願しようとする者は、出願資格審査を行うので、事前に教務部・大学院事務室へ照会してください。**

## 3 出願書類

⑴ 入学志願票（本学所定用紙）

⑵ 修士課程修了（見込）証明書
外国の大学において修士の学位に相当する学位を得たものは学位授与証明書

⑶ 単位取得成績証明書

⑷ 「在留カード」の両面写し（外国籍の場合）

⑸ 修士論文（写）〈提出した論文は選考終了後に返却〉

⑹ 志望理由書〈2,000字程度〉
※自筆または、パソコンも可。パソコン作成の場合は、P23を参照のこと。
**志望理由書**は、以下の項目を基本として自由に作成してください。
① **志望動機**
② **将来の進路志望**
③ **入学後の目標と抱負**

⑺ 研究計画書〈2,000字程度〉
※自筆または、パソコンも可。パソコン作成の場合は、P23を参照のこと。
**研究計画書**は、以下の項目を基本として作成してください。
① **研究テーマ**
② **研究目的**
③ **研究構想・計画（研究方法・手順およびどこまで研究を進めるのかを含める）**

⑻　TOEFL または TOEIC のスコア＜試験科目（外国語（英語））の免除を希望する者＞
⑼　職務経歴書（本学所定用紙）
⑽　住所票（本学所定用紙）
⑾　振込受付証明書（本学所定用紙）

## 4 出 願 手 続

出願書類と入学受験料30,000円を出願期間中に払込取扱票にて納入してください。（本学修了生等の入学受験料は15,000円）

## 5 選 抜 方 法

選抜方法は、筆記試験（専門科目・英語）、口述試験および書類審査により行う。

なお、TOEFL スコアが iBT76点、PBT543点、TOEIC700点以上のスコア原本を事前提出した受験者については、外国語（英語）の試験を免除します。（詳細については、出願書類提出注意事項一覧を確認してください。）

※英語は英和辞書のみ持込み可（**電子辞書は不可**）

## 6 試験科目および試験時間

| 研　究　科 | 試験時間 | 科目 |
|---|---|---|
| 総合福祉学研究科<br>社会福祉学専攻 | 午前 9 時15分～ | 入室・説明 |
| | 午前 9 時30分～午前10時30分 | 社会福祉専門科目 |
| | 午前11時00分～午後12時00分 | 英語 |
| | 午後12時00分～午後 1 時00分 | 昼食・休憩 |
| | 午後 1 時00分～ | 口述試験 |

【受験上の注意事項】

⑴　受験票を必ず持参してください。紛失あるいは忘れた場合は、試験会場入室前に入学試験本部に申し出てください。
⑵　試験当日は、午前 9 時15分までに指定された試験会場に入室し、着席してください。
⑶　やむを得ない事情による遅刻は、試験開始後20分までは受験を認めますが、試験時間の延長は行いません。
⑷　専門科目、英語、口述試験のいずれか 1 つでも受験しなかった場合は、受験を辞退したものとして取り扱います。（ただし、英語の試験を免除された者は、専門科目と口述試験を対象とします。）
⑸　受験票は必ず携帯し、試験中は机上右側に置いてください。また試験監督者の請求があった場合は、提示してください。
⑹　英語の試験時は、**英和辞書のみ持込み可**ですが、**電子辞書の持込みは不可**とします。
⑺　携帯電話等は、試験会場に入室する前に電源を切ってください。
⑻　試験会場における受験者間の物品等の貸与は、一切認めませんので注意してください。
⑼　試験会場ではすべて試験監督者の指示に従ってください。
⑽　入学試験等に関する問い合わせについては、教務部・大学院事務室へ連絡ください。

## 7 試 験 会 場

「東北福祉大学国見キャンパス」
仙台市青葉区国見1-8-1
TEL　022-233-3111㈹　　ダイヤルイン　022-717-3315（教務課）

## 8 出願上の注意事項

⑴　出願書類はすべて郵送してください（出願書類提出用封筒にて郵送）。郵便事情を考慮しそれぞれの出願期間内に必着するよう早めに送付してください（**窓口への持参は不可とします**）。
⑵　出願書類に記載する氏名・生年月日は、住民票または在留カードの記載どおりに記入してください。
　なお、外国籍を有する者で入学後も通称名の使用を希望する場合は、住民票の通称名を記入してください。
⑶　入学志願票に**必ず署名捺印を**してください。
⑷　一旦受理した書類・入学受験料は、理由の如何にかかわらず返還しません。

⑸　受験する際に特別の配慮を必要とする場合は、出願書類提出前に必ず教務部・大学院事務室に問い合わせください。

⑹　願書提出後の照会・連絡は、氏名・受験番号を明記し、返信用封筒または葉書（宛名を明記し、切手を貼付すること）を同封の上、教務部・大学院事務室へ照会ください。

## 9 試験日および出願期間日程等

**◎試 験 日 時**

2025年 2 月22日㈯　午前 9 時30分より

**◎出 願 期 間**

2025年 1 月27日㈪～ 2 月18日㈫

**◎合 格 発 表**

2025年 3 月 4 日㈫　本人宛合否通知書を送付

**（掲示による発表はしません）**

※合否に関する電話等の問い合わせには一切応じません。

**◎入学手続期間**

2025年 3 月 4 日㈫～ 3 月17日㈪

## 10 学　　費

⑴　合格者は所定の入学手続締切日までに、振込用紙を使用し所定の口座「東北福祉大学」へ振込み、必要書類を郵送してください。

⑵　締切日までに入学手続を完了しない場合は入学不可となります。締切日当日の消印および受領物は有効とします。

（2025年度用）

| | | | 本学卒業生等 | 本学卒業生等以外からの入学者 |
|---|---|---|---|---|
| ※入学申込金（入学金） | | | | 100,000円 |
| 授業料 | | | 478,000円 | 478,000円 |
| 施設設備資金 | | | 58,000円 | 117,500円 |
| 厚生費 | | | 20,000円 | 20,000円 |
| 後援会費 | | | 24,200円 | 24,200円 |
| 納入方法 | 全納方式 | | 580,200円 | 739,700円 |
| | 分納方式 | 入学時 | 341,200円 | 500,700円 |
| | | 9 月 | 239,000円 | 239,000円 |

**※　入学申込金は入学許可証が発行された時点で入学金として振替えます。**

（注）①　諸納金は「全納方式」もしくは「分納方式」のどちらかを選択し、納入します。

**「全納方式」**

諸納金一括納入

**「分納方式」**

諸納金の内後期授業料を除いた全額を納入

後期授業料は2025年 9 月末日まで納入

②　学費スライド制の適用について、次年度以降はスライド制を適用により改訂します。

**【入学辞退について】**

合格者で入学手続を完了した者が、止むを得ない事情で入学を辞退する場合は、本学教務部・大学院事務室へ連絡のうえ、**2025年 3 月31日㈪16時00分まで入学辞退届（本学所定用紙）**を提出した場合に限り、入学申込金（入学金）を除いたその他の諸納金を返還します。

なお、入学辞退届用紙は教務部・大学院事務室宛に請求し、提出は、教務部・大学院事務室へ持参もしくは速達便で郵送してください。郵送の場合は締切日必着とします。

## 総合福祉学研究科（博士課程）〈一般選抜〉

※本学卒業生等とは、以下の方をいいます。
①本学学部を卒業後、直ちに本学大学院に進学する方
②本学学部または大学院を過去に卒業または修了した方
③本学で現に雇用されている常勤の教職員
④本学の関連法人（社会福祉法人東北福祉会および医療法人社団東北福祉会）の職員であり、関連法人からリーダー養成の一環として推薦された方
⑤本学学生の実習受け入れ等に協力することについて本学との間で協定を締結した施設や団体の職員であり、当該施設等からリーダー養成の一環として推薦された方
⑥現に福祉や医療等の現場で仕事に携わっており、キャリア形成のため本学大学院の科目等履修生となり、スキルアップ講座または履修証明プログラムに参加した方

## 11 大学院所在地（問い合わせ先）

〒989-3201
仙台市青葉区国見ケ丘 6-149-1
ＴＥＬ　022-727-2288　ＦＡＸ　022-728-6420
E-mail:graduate@tfu.ac.jp
http://www.tfu.ac.jp/

2025年度

# 東北福祉大学大学院
# 入 学 試 験 要 項
## 〈社会人選抜〉

## 総合福祉学研究科
## （ 博 士 課 程 ）

社会福祉学専攻

# V 総合福祉学研究科博士課程（社会人選抜）

## 1 募集人員等

| 専　攻　名 | 入学定員 | 募集人員 | 標準修業年限 |
|---|---|---|---|
| 社会福祉学専攻 | 3名 | 1名 | 3年 |

## 2 出願資格

社会人選抜入学試験に出願できる者は原則として、3年以上の社会的実務経験を有する者（入学時）で、下記の⑴～⑹のいずれかに該当する者とします。

⑴ 修士の学位または専門職学位を有する者、または2025年3月までに修士の学位または専門職学位を取得見込みの者。

⑵ 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、または2025年3月まで修士の学位または専門職学位に相当する学位を取得見込みの者。

⑶ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、または2025年3月まで修士の学位または専門職学位に相当する学位を取得見込みの者。

⑷ 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者、または2025年3月まで修士の学位または専門職学位に相当する学位を取得見込みの者。

⑸ 文部科学大臣が指定した者。

① 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者。

② 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、または外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者。

⑹ 大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者。

**【注１】 外国の国籍を有する者は、日本学生支援機構が実施する日本留学試験を受験し、「日本語」の成績が200点以上であるか、もしくは日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験を受験し、N2（旧２級）以上に合格している必要があります。**

**【注２】 社会人選抜入学試験に出願予定の者で、出願資格⑸～⑹によって出願しようとする者は、出願資格審査を行うので、事前に教務部・大学院事務室へ照会してください。**

**【注３】 社会的実務経験とは、企業・官公庁等における勤務（臨時雇用でも継続的なものであればよい）のほかに、家事・家業に継続して従事したことを含む。**

## 3 出願書類

⑴ 入学志願票（本学所定用紙）

⑵ 修士課程修了（見込）証明書
外国の大学において修士の学位に相当する学位を得たものは学位授与証明書

⑶ 単位取得成績証明書

⑷ 「在留カード」の両面写し（外国籍の場合）

⑸ 修士論文（写）〈提出した論文は選考終了後に返却〉

⑹ 志望理由書〈2,000字程度〉
※自筆または、パソコンも可。パソコン作成の場合は、P23を参照のこと。
**志望理由書**は、以下の項目を基本として自由に作成してください。
① **志望動機**
② **将来の進路志望**
③ **入学後の目標と抱負**

⑺ 研究計画書〈2,000字程度〉
※自筆または、パソコンも可。パソコン作成の場合は、P23を参照のこと。

研究計画書は、以下の項目を基本として作成してください。

① 研究テーマ
② 研究目的
③ 研究構想・計画（研究方法・手順およびどこまで研究を進めるのかを含める）

⑻ TOEFL または TOEIC のスコア＜試験科目（外国語（英語））の免除を希望する者＞
⑼ 職務経歴書（本学所定用紙）
⑽ 住所票（本学所定用紙）
⑾ 振込受付証明書（本学所定用紙）

## 4 出 願 手 続

出願書類と入学受験料30,000円を出願期間中に払込取扱票にて納入してください。（本学修了生等の入学受験料は15,000円）

## 5 選 抜 方 法

選抜方法は、筆記試験（英語）、口述試験および書類審査により行う。

なお、TOEFL スコアが iBT76点、PBT543点、TOEIC700点以上のスコア原本を事前提出した受験者については、外国語（英語）の試験を免除します。（詳細については、出願書類提出注意事項一覧を確認してください。）

※英語は英和辞書のみ持込み可（**電子辞書は不可**）

## 6 試験科目および試験時間

| 研　究　科 | 試験時間 | 科目 |
|---|---|---|
| 総合福祉学研究科<br>社会福祉学専攻 | 午前10時45分～ | 入室・説明 |
| | 午前11時00分～午後12時00分 | 英語 |
| | 午後12時00分～午後１時00分 | 昼食・休憩 |
| | 午後１時00分～ | 口述試験 |

【受験上の注意事項】

⑴ 受験票を必ず持参してください。紛失あるいは忘れた場合は、試験会場入室前に入学試験本部に申し出てください。
⑵ 試験当日は、午前10時45分までに指定された試験会場に入室し、着席してください。
⑶ やむを得ない事情による遅刻は、試験開始後20分までは受験を認めますが、試験時間の延長は行いません。
⑷ 英語、口述試験のいずれか１つでも受験しなかった場合は、受験を辞退したものとして取り扱います。（ただし、英語の試験を免除された者は、口述試験を対象とします。）
⑸ 受験票は必ず携帯し、試験中は机上右側に置いてください。また試験監督者の請求があった場合は、提示してください。
⑹ 英語の試験時は、**英和辞書のみ持込み可**ですが、**電子辞書の持込みは不可**とします。
⑺ 携帯電話等は、試験会場に入室する前に電源を切ってください。
⑻ 試験会場における受験者間の物品等の貸与は、一切認めませんので注意してください。
⑼ 試験会場ではすべて試験監督者の指示に従ってください。
⑽ 入学試験等に関する問い合わせについては、教務部・大学院事務室へ連絡ください。

## 7 試 験 会 場

「東北福祉大学国見キャンパス」
仙台市青葉区国見1-8-1
TEL　022-233-3111㈹　　ダイヤルイン　022-717-3315（教務課）

## 8 出願上の注意事項

⑴ 出願書類はすべて郵送してください（出願書類提出用封筒にて郵送）。郵便事情を考慮しそれぞれの出願期間内に必着するよう早めに送付してください（**窓口への持参は不可とします**）。
⑵ 出願書類に記載する氏名・生年月日は、住民票または在留カードの記載どおりに記入してください。
なお、外国籍を有する者で入学後も通称名の使用を希望する場合は、住民票の通称名を記入してください。

⑶　入学志願票に**必ず署名捺印を**してください。
⑷　一旦受理した書類・入学受験料は、理由の如何にかかわらず返還しません。
⑸　受験する際に特別の配慮を必要とする場合は、出願書類提出前に必ず教務部・大学院事務室に問い合わせください。
⑹　願書提出後の照会・連絡は、氏名・受験番号を明記し、返信用封筒または葉書（宛名を明記し、切手を貼付すること）を同封の上、教務部・大学院事務室へ照会ください。

## 9 試験日および出願期間日程等

**◎試 験 日 時**

2025年 2 月22日㈯　午前11時より

**◎出 願 期 間**

2025年 1 月27日㈪～ 2 月18日㈫

**◎合 格 発 表**

2025年 3 月 4 日㈫　本人宛合否通知書を送付
**（掲示による発表はしません）**
※合否に関する電話等の問い合わせには一切応じません。

**◎入学手続期間**

2025年 3 月 4 日㈫～ 3 月17日㈪

## 10 学　　費

⑴　合格者は所定の入学手続締切日までに、振込用紙を使用し所定の口座「東北福祉大学」へ振込み、必要書類を郵送してください。
⑵　締切日までに入学手続を完了しない場合は入学不可となります。締切日当日の消印および受領物は有効とします。　（2025年度用）

| | | | 本学卒業生等 | 本学卒業生等以外からの入学者 |
|---|---|---|---|---|
| ※入学申込金（入学金） | | | | 100,000円 |
| 授業料 | | | 478,000円 | 478,000円 |
| 施設設備資金 | | | 58,000円 | 117,500円 |
| 厚生費 | | | 20,000円 | 20,000円 |
| 後援会費 | | | 24,200円 | 24,200円 |
| 納入方法 | 全納方式 | | 580,200円 | 739,700円 |
| | 分納方式 | 入学時 | 341,200円 | 500,700円 |
| | | 9 月 | 239,000円 | 239,000円 |

**※　入学申込金は入学許可証が発行された時点で入学金として振替えます。**

（注）①　諸納金は「全納方式」もしくは「分納方式」のどちらかを選択し、納入します。
**「全納方式」**
諸納金一括納入
**「分納方式」**
諸納金の内後期授業料を除いた全額を納入
後期授業料は2025年 9 月末日まで納入
②　学費スライド制の適用について、次年度以降はスライド制を適用により改訂します。

**【入学辞退について】**

合格者で入学手続を完了した者が、止むを得ない事情で入学を辞退する場合は、本学教務部・大学院事務室へ連絡のうえ、**2025年 3 月31日㈪16時00分まで入学辞退届（本学所定用紙）**を提出した場合に限り、入学申込金（入学金）を除いたその他の諸納金を返還します。

なお、入学辞退届用紙は教務部・大学院事務室宛に請求し、提出は、教務部・大学院事務室へ持参もしくは速達便で郵送してください。郵送の場合は締切日必着とします。

## 総合福祉学研究科（博士課程）〈社会人選抜〉

※本学卒業生等とは、以下の方をいいます。
①本学大学院修士課程修了後、直ちに本学大学院博士課程に進学する方
②本学学部または大学院を過去に卒業または修了した方
③本学で現に雇用されている常勤の教職員
④本学の関連法人（社会福祉法人東北福祉会および医療法人社団東北福祉会）の職員であり、関連法人からリーダー養成の一環として推薦された方
⑤本学学生の実習受け入れ等に協力することについて本学との間で協定を締結した施設や団体の職員であり、当該施設等からリーダー養成の一環として推薦された方
⑥現に福祉や医療等の現場で仕事に携わっており、キャリア形成のため本学大学院の科目等履修生となり、スキルアップ講座または履修証明プログラムに参加した方

## 11 大学院所在地（問い合わせ先）

〒989-3201
仙台市青葉区国見ケ丘 6-149-1
ＴＥＬ　022-727-2288　ＦＡＸ　022-728-6420
E-mail:graduate@tfu.ac.jp
http://www.tfu.ac.jp/

# 注　意　事　項

## Ⅵ 出願書類提出注意事項一覧 【修士課程】

| 出願書類 | 一般 | 外国人留学生 | 社会人 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 入学志願票 | ○ | ○ | ○ | ・必要事項を記入してください。<br>・捺印を忘れずに押印のこと、捺印なしの場合は出願書類を受理しませんので注意してください。<br>・縦4cm×横3cmの写真（正面上半身脱帽、背景無、出願前3ヵ月以内に撮影したもの）の裏面に氏名・出身大学等名を記入し、全面糊付貼付してください。<br>・合否通知書等受信住所と住所票は必ず一致するようにしてください。 |
| 入学受験料 | ○ | ○ | ○ | ・払込取扱票にて納付してください。 |
| 受験票 | ○ | ○ | ○ | ・必要事項を記入してください。<br>・縦4cm×横3cmの写真（正面上半身脱帽、背景無、出願前3ヵ月以内に撮影したもの）の裏面に氏名・出身大学等名を記入し、全面糊付貼付してください。 |
| 振込受付証明書 | ○ | ○ | ○ | ・志願票に必ず貼付してください。 |
| 写真票 | ○ | ○ | ○ | ・必要事項を記入してください。<br>・出願書類と一緒に提出してください。<br>・縦4cm×横3cmの写真（正面上半身脱帽、背景無、出願前3ヵ月以内に撮影したもの）の裏面に氏名・出身大学等名を記入し、全面糊付貼付してください。 |
| 卒業（見込）証明書 | ○ | ○ | ○ | ・出願資格に該当する出身大学の学長または学部長が作成したものを提出してください。 |
| 単位取得成績証明書 | ○ | ○ | ○ | ・出願資格に該当する出身大学の学長または学部長が作成したものを提出してください。 |
| 学士の学位授与（見込）証明書〈該当者のみ〉 | ● | ● | ● | ・学位授与機構が発行する学士の学位授与（見込）証明書を提出してください。（一般選抜出願資格⑵・社会人選抜出願資格⑶に該当する者） |
| 「在留カード」の両面写し | | ● | | ・日本に滞在中の者は提出してください。 |
| 志望理由書 | ○ | ○ | ○ | ・①、②、③を基本として自筆またはパソコンで2,000字程度作成してください。<br>・パソコンの場合は、A4判用紙横書き、10.5ポイント、40字×40行で作成 |
| 研究計画書 | ○ | ○ | ○ | ・①、②、③を基本として自筆またはパソコンで2,000字程度作成してください。<br>・パソコンの場合は、A4判用紙横書き、10.5ポイント、40字×40行で作成 |
| 職務経歴書（社会人選抜志願者） | | ● | ○ | ・必要事項を記入してください。<br>・研究計画に関する過去の職務内容については、箇条書きでも構いません。<br>・研究業績等については、年度月別順に記入してください。 |
| 卒業論文 | ● | ● | ● | ・大学を卒業している志願者で、卒業論文（コピー可）を作成した者は、提出してください。（試験終了後返却）<br>・大学卒業見込の志願者で、卒業論文を作成見込み者は、概要（コピー可）を所定の欄に記入してください。 |

## Ⅵ 出願書類提出注意事項一覧 【修士課程】

| 出願書類 | 一般 | 外国人留学生 | 社会人 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 受験配慮希望票 | ● | ● | ● | ・身体等に障がいを有し配慮を希望される方は、大学院事務室より「受験配慮希望票」を取り寄せてください。<br>※状況に応じて面談をお願いする場合があります。 |
| 外国語の免除に必要な書類<br>TOEFL は Official Score Report（公式スコア表）<br>TOEIC は Official Score Certificate（公式認定証） | ● | ● | | ・スコア原本または原本証明付記の写しは、出願書類とあわせて送付してください。願書提出後でのスコアの追加または差替えは認めません。また複数の異なる試験のスコアを提出することもできます。なお、入学試験実施日から遡って**過去2年以内**に受験したものを有効とします。<br>・TOEFL スコアが iBT70点、PBT523点、TOEIC650点以上のいずれかの試験スコアを採用します。団体受験用の TOEFL-ITP および TOEIC-IP テストは認めません。スコア原本を事前提出した受験者については、英語の試験を免除します。 |
| 日本語能力を証明する書類 | | ○ | | ・日本学生支援機構が実施する日本留学試験の、「日本語」の成績が200点以上である事を証明する書類、もしくは、日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験において、N2（旧 2 級）以上に合格していることが証明できる書類を提出してください。 |
| 受験票送付用封筒 | ○ | ○ | ○ | ・封筒に郵便番号・住所・氏名を明記してください。 |
| 住所票 | ○ | ○ | ○ | ・合否通知書等送付用として使用します。 |
| 出願書類送付用封筒 | ○ | ○ | ○ | ・出願書類が揃っているかチェック欄にチェックしてください。 |

※　**書類作成日等の年号は、西暦で記入してください。**
※　●印については、**該当者のみ**が提出してください。
※　**外国語で作成された書類**には、**必ず日本語訳を添付**してください。

上記出願書類を募集要項に添付されている封筒に入れて郵送してください。

## Ⅶ 出願書類提出注意事項一覧 【博士課程】

| 出願書類 | 一般 | 外国人留学生 | 社会人 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 入学志願票 | ○ | ○ | ○ | ・必要事項を記入してください。<br>・捺印を忘れずに押印のこと、捺印なしの場合は出願書類を受理しませんので注意してください。<br>・縦 4 cm×横 3 cmの写真（正面上半身脱帽、背景無、出願前 3 ヵ月以内に撮影したもの）の裏面に氏名・出身大学院等名を記入し、全面糊付貼付してください。<br>・合否通知書等受信住所と住所票は必ず一致するようにしてください。 |
| 入学受験料 | ○ | ○ | ○ | ・払込取扱票にて納付してください。 |
| 受験票 | ○ | ○ | ○ | ・必要事項を記入してください。<br>・縦 4 cm×横 3 cmの写真（正面上半身脱帽、背景無、出願前 3 ヵ月以内に撮影したもの）の裏面に氏名・出身大学院等名を記入し、全面糊付貼付してください。 |
| 振込受付証明書 | ○ | ○ | ○ | ・志願票に必ず貼付してください。 |
| 写真票 | ○ | ○ | ○ | ・必要事項を記入してください。<br>・出願書類と一緒に提出してください。<br>・縦 4 cm×横 3 cmの写真（正面上半身脱帽、背景無、出願前 3 ヵ月以内に撮影したもの）の裏面に氏名・出身大学院等名を記入し、全面糊付貼付してください。 |
| 修了（見込）証明書 | ○ | ○ | ○ | ・出願資格に該当する出身大学院の学長または研究科長が作成したものを提出してください。 |
| 単位取得成績証明書 | ○ | ○ | ○ | ・出願資格に該当する出身大学院の学長または研究科長が作成したものを提出してください。 |
| 修士の学位授与（見込）証明書〈該当者のみ〉 | ● | | ● | ・学位授与機構が発行する修士の学位授与（見込）証明書を提出してください。（該当者のみ） |
| 「在留カード」の両面写し | | ● | | ・日本に滞在中の者は提出してください。 |
| 志望理由書 | ○ | ○ | ○ | ・①、②、③を基本として自筆またはパソコンで2,000字程度作成してください。<br>・パソコンの場合は、A4判用紙横書き、10.5ポイント、40字×40行で作成し、必ず志望する専攻を入れる事。 |
| 研究計画書 | ○ | ○ | ○ | ・①、②、③を基本として自筆またはパソコンで2,000字程度作成してください。<br>・パソコンの場合は、A4判用紙横書き、10.5ポイント、40字×40行で作成し、必ず志望する専攻を入れる事。 |
| 職務経歴書 | ● | ● | ○ | ・必要事項を記入してください。<br>・研究計画に関する過去の職務内容については、箇条書きでも構いません。<br>・研究業績等については、年度月別順に記入してください。 |
| 修士論文 | ○ | ○ | ○ | ・修士課程を修了している志願者は、修士論文（コピー可）を提出してください。（試験終了後返却）<br>・修士課程修了見込の志願者は、修士論文の概要を所定の欄に記入してください。 |

## Ⅶ 出願書類提出注意事項一覧 【博士課程】

| 出願書類 | 一般 | 外国人留学生 | 社会人 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 受験配慮希望票 | ● | ● | ● | ・身体等に障がいを有し配慮を希望される方は、大学院事務室より「受験配慮希望票」を取り寄せてください。<br>※状況に応じて面談をお願いする場合があります。 |
| 外国語の免除に必要な書類<br>TOEFL は Official Score Report（公式スコア表）<br>TOEIC は Official Score Certificate（公式認定証） | ● | ● | ● | ・スコア原本または原本証明付記の写しは、出願書類とあわせて送付してください。願書提出後でのスコアの追加または差替えは認めません。また複数の異なる試験のスコアを提出することもできます。なお、入学試験実施日から遡って**過去2年以内**に受験したものを有効とします。<br>・TOEFL スコアが iBT76点、PBT543点、TOEIC700点以上のいずれかの試験スコアを採用します。団体受験用の TOEFL-ITP および TOEIC-IP テストは認めません。スコア原本を事前提出した受験者については、英語の試験を免除します。 |
| 日本語能力を証明する書類 | | ○ | | ・日本学生支援機構が実施する日本留学試験の、「日本語」の成績が200点以上である事を証明する書類、もしくは、日本国際教育支援協会が実施する日本語能力試験において、N2（旧 2 級）以上に合格していることが証明できる書類を提出してください。 |
| 受験票送付用封筒 | ○ | ○ | ○ | ・封筒に郵便番号・住所・氏名を明記してください。 |
| 住所票 | ○ | ○ | ○ | ・合否通知書等送付用として使用します。 |
| 出願書類送付用封筒 | ○ | ○ | ○ | ・出願書類が揃っているかチェック欄にチェックしてください。 |

※　**書類作成日等の年号は、西暦で記入してください。**
※　●印については、**該当者のみ**が提出してください。
※　**外国語で作成された書類**には、**必ず日本語訳を添付**してください。

上記出願書類を募集要項に添付されている封筒に入れて郵送してください。

## Ⅷ 個別入学資格審査について

東北福祉大学大学院では下記の入学資格に該当する方が、本学大学院への入学を希望し出願しようとする場合には、事前に個別の入学資格審査（個別審査）を受けなければなりません。入学資格審査によって入学資格を認められた方に限り、入学試験受験の出願を認めることになりました。

資格審査該当者は、事前に教務部・大学院事務室（022-727-2288）へ照会の上、事前審査の申請等必要な手続を行ってください。

記

### 【１】入学資格（資格審査を要するもの）

＜修士課程＞

① 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者。（入学時）
（対象者は、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業者やその他の教育施設の修了者等）
［文部省令第34号（平成11年８月31日） 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）の一部改正による］

＜博士課程＞

② 大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者。（入学時）
［文部省令第34号（平成11年８月31日） 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）の一部改正による］

### 【２】資格審査出願に必要な書類

① 表紙（氏名・志望課程・研究科・専攻名等を記入） 様式自由
② 最終学校卒業（見込）証明書
③ 最終学校単位取得成績証明書
④ 志望理由書（本学所定用紙）＜提出枚数：自由＞ 出願書類添付 ※自筆またはパソコン可。
パソコンの場合は、A4判用紙横書き、10.5ポイント、40字×40行で作成。
志望理由書は、以下の項目を基本として作成してください。
「ア」 志望動機
「イ」 将来の進路志望
「ウ」 入学後の目標と抱負
⑤ 研究計画書（本学所定用紙）＜2,000字程度＞ 出願書類添付 ※自筆またはパソコン可。
パソコンの場合は、A4判用紙横書き、10.5ポイント、40字×40行で作成。
「ア」 研究テーマ
「イ」 研究目的
「ウ」 研究構想・計画
研究方法・手順およびどこまで研究を進めるのかを含める。
⑥ 履歴書 様式自由
・学歴・職業歴等（職務内容明記）および社会での活動歴
・連絡先の電話番号（携帯・職場等電話）を必ず明記してください。
⑦ その他
著書、論文等がある場合は、その現物またはコピー

## 共通事項

### 【３】入学資格審査出願受付期間および提出先

① 受付期間

2024年８月13日㈫～８月30日㈮

2025年１月６日㈪～１月14日㈫

② 合格発表

2024年９月４日㈬　本人宛合否通知書送付

2025年１月21日㈫　本人宛合否通知書送付

③ 提出先

＜教務部・大学院事務室＞

受付時間　（平日）9：00～17：00

### 【４】入学資格審査の審査料

審査料は不要です。

### 【５】入学試験受験出願手続き

① 入学資格審査に合格した方は、入学試験の出願手続を行ってください。
入学試験出願締切日は、入学試験要項に記載されております。

② 入学資格審査に合格後、入学試験に出願する場合は、資格審査出願書類の②～⑤の書類は、**提出不要**です。

## Ⅸ 東北福祉大学大学院のポリシー

総合福祉学研究科

**教育研究上の目的**

本学大学院は、建学の精神に則り、人間科学に関する精深な学術の理論と応用を研究する方法を教授し、その深奥を究めて、文化の発展と人類の福祉に寄与しうる人材を育成することを目的としています。

〈修士課程〉

本学の学部における一般的ならびに専門的教養の上に、さらに広い視野に立って精深な実学研究・教育の学識を授け、社会福祉学専攻においては、高度な専門知識を有する実践的研究者、または研究的実践家の養成を目的としています。また、福祉心理学専攻においては、高度な専門知識を有する人材の養成と、研究者の養成、臨床心理士、公認心理師の養成を目的としています。

〈博士課程〉

社会福祉学分野の実践的研究者、研究的実践家として、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力および教育能力、その基礎となる学識を養うことを目的としています。

**アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)**

すべての人がよりよく生きること（well-being）を可能にする共生社会の実現に寄与したいという熱意を持ち、社会福祉学、福祉心理学の知識・技術を高めるための研究する力、実践する力を身に付けたいという学生の入学を希望します。

博士課程においては、特に社会福祉学分野での自立した実践的研究者、または研究的実践家となることをめざす学生の入学を希望します。

**カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)**

共生社会の実現と人類の福祉へ貢献する人材の育成という本研究科の教育研究上の目的の下、社会福祉学と福祉心理学に関する高度な専門知識・技術と、その基盤となる理論を学修します。社会と人間にかかわる諸問題に対する視点、その解決のための方策を理論的に学修し、修士学位請求論文としてまとめます。

博士課程においては、社会福祉学研究に必要な方法を学修し、定められた段階的審査を経て、博士学位請求論文の作成を行います。

**ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位の授与に関する方針)**

現代社会とそこで暮らす人々が直面するさまざまな問題を発見、解決し、共生社会の構築をめざすための研究能力、高度な専門性を有すると認められ、修士学位請求論文の最終試験に合格した人に「修士（社会福祉学)」および「修士（福祉心理学)」を授与します。

博士課程においては、社会福祉学研究に必要な方法を学修し、定められた段階ごとの審査に合格し、博士学位請求論文の最終審査に合格した人に「博士（社会福祉学)」の学位を授与します。

**◆社会福祉学専攻**

**教育研究上の目的**

本専攻は、本学の建学の精神である「行学一如」を基盤とし、「自利・利他円満」を教育の理念として、社会科学と人間科学などに関する学術の理論とその応用を研究する方法を教授し、共生社

会の実現と人類の福祉に寄与しうる人材を育成すること目的としています。

**教育目標**

修士課程においては、社会福祉とその実践に関する科学的視点と高度な専門性を有する実践的研究者、または研究的実践家の養成を目的としています。

博士課程においては、社会福祉に関連する分野についての修士課程を修了した人を対象に、実践的研究者として、あるいは研究的実践家として、自立して研究活動を行い、高度な実践を行うに必要な研究や人材育成の知識の修学と合わせて、豊かな学識を養うことを目標としています。

**アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)**

**1．求める学生像**

〈修士課程〉

(1) 実学の視点をもった社会福祉実践向上への目的意識
現代の社会福祉的事象に関心を持ち、その問題を科学的に解決し、社会福祉実践の質を高めようとすることの高い目的意識を持つ人。

(2) 実学研究を遂行する能力
実践と一体を成す実学研究をおこなうための、社会福祉学とその近接領域の学問に関する基礎知識と総合的な学力を有する人。

(3) 学際的な視点
社会福祉実践に必要な近接する学問領域との連携をおこなうための広い視野と柔軟かつ論理的な思考をもつ人。

(4) 自己研鑽
実学研究をとおして、自らの専門性を向上させようとし、生涯にわたる自己研鑽を求める人。

(5) 国際的視点
世界の社会福祉的な事象に関心をもち、その課題の分析、解決に取り組もうとする人。

〈博士課程〉

修士課程の求める学生像に加え、さらに実践的研究者、または研究的実践家として、自立して研究活動を行うに必要な高度な研究と教育の知識を身につけ、合わせて豊かな学識を修得することに、主体的に取り組む意欲を持っている人。

**2．入学前に培うことを求める力**

〈修士課程〉

(1) 研究と実践を進めるために必要な知識・技法と論理的思考、判断力を培うことを求めます。

(2) 合理的、論理的思考力、判断力そして表現力等を培うことを求めます。

〈博士課程〉

(1) 修士課程での学修を踏まえ、研究と実践を進めるために、必要な知識・技法と論理的思考、判断力を培うことを求めます。

(2) 研究成果を関連学会に発表、査読制度を有する学術雑誌への投稿などの研究活動を進めるために、合理的、論理的思考力、判断力そして表現力等を培うことを求めます。

**3. 評価の方法**

〈修士課程〉

「求める学生像」に適い、「入学前に培うことを求める力」を備えている人材かどうかをみるた

めに、次の評価の方法を用います。
(1) 出願書類、口述試問、筆記試験、小論文等により、総合的に評価します。
(2) 多様な背景を持つ学生の受入れに関して、「社会人」対象の入試を行います。
(3) 特別な支援を必要とする者については、すべての入試について「受験（修学）配慮希望票」の提出により入試に支障なく取り組むことができるように、配慮を行います。

〈博士課程〉
「求める学生像」に適い、「入学前に培うことを求める力」を備えている人材かどうかをみるために、次の評価の方法を用います。
(1) 出願書類、口述試問、筆記試験により、総合的に評価します。
(2) 多様な背景を持つ学生の受入れに関して、「社会人」対象の入試を行っています。
(3) 特別な支援を必要とする者については、すべての入試について「受験（修学）配慮希望票」の提出により入試に支障なく取り組むことができるように、配慮を行っています。

**カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)**

**1．教育課程編成の方針**

〈修士課程〉
共生社会の実現と人類の福祉へ貢献する人材の育成という本研究科の教育研究上の目的の下、現代社会の福祉的課題、および実践的課題を科学的に分析し、それらを解決する能力を身につけるために教育課程を編成しています。

〈博士課程〉
修士課程を修学した人が、社会福祉実践の向上に寄与することのできる、より高度な実践的研究者または実践家として、研究課題を追求する自立した研究能力と高い学識を身につけるために教育課程を編成しています。

**2．教育課程の構成**

〈修士課程〉
(1) 実学としての社会福祉学理論、実践理論を認識するための科目を設置する。
(2) 社会問題と人々の生活ニーズの解決に必要な近接領域との連携、協働を考えるための科目を設置する。
(3) それらを実践するために必要な研究方法に関する科目を設置する。
(4) 修士論文作成のために指導教員を定めて研究指導を行い、研究構想発表、中間報告などでは、様々な領域の教員によるコメントを交え、修士論文作成に至るまで複数の教員がかかわる指導を展開する。

〈博士課程〉
(1) 博士論文作成のために主査、副査複数の教員がかかわる研究演習科目し指導を展開する。
(2) 自立した研究能力を身につけるために、学会等での研究発表および査読付学術雑誌への投稿・掲載を基本とする。
(3) 段階的に研究を進めるために報告会、公聴会を設け、各年次にそれぞれの審査項目をガイドラインに定めて設定し、段階ごとの論文作成に至るまでの確認を複数教員にて行う。

## 共通事項

**ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位の授与に関する方針)**

**1．学生が身に付けるべき資質・能力の目標**

〈修士課程〉

本課程の修了生は、社会福祉実践の向上に寄与するために、社会福祉実践と社会福祉理論を科学的に追求し、また近接する領域との連携や協働のあり方を科学的に追求する能力を持った実践家および実践的研究者としての能力を身につけています。

〈博士課程〉

本課程の修了生は、社会福祉実践の向上に寄与することのできる、より高度な実践的研究者または研究的実践家として、研究課題を追求する自立した研究能力と高い学識を身につけた優れた実践家・研究者・教育者としての能力を身につけています。

**2．学位授与の要件**

〈修士課程〉

修士課程の所定の科目を履修し、研究指導を受けたうえで、社会福祉に関連する学問分野の諸問題を解決するための研究力や実践力を修得したと評価するに値する成果（修士論文）を提出し、最終試験に合格した人に修士（社会福祉学）の学位を授与します。

〈博士課程〉

博士課程の所定の科目を履修し、各年次にそれぞれに設定した審査項目に合格し、かつ実践的研究者、または研究的実践家として自立して研究活動、教育活動、および研究的実践活動を行うに必要な高度な研究・教育・実践能力、および豊かな知識の修得の評価に値する成果（博士論文）を提出し、最終試験に合格した人に博士（社会福祉学）の学位を授与します。

## ◆福祉心理学専攻

**教育研究上の目的**

本専攻は、「福祉心理学分野」と「臨床心理学分野」から構成されています。

福祉心理学分野は、保健、医療、教育を含む福祉の現場や、一般企業等で心理的支援の考え方を踏まえた実践を行う人材の育成をめざしています。心理的支援の考え方の基本は、職業としての実践に役立つだけではなく、日常生活の人間関係全体にも応用可能なものです。

そのため、①大学卒業後に、ひろく人々のウェルビーイングに関わる領域で活躍している方が、心理学的視点に立った支援も可能になるように、②今後ひろく人々のウェルビーイングに関わる領域での活躍をめざす方が、それぞれの現場に出る前に心理的支援の基本を身に着け、心理実践力を持って社会に出ていくことができるように、という2つの目的のためにカリキュラムを設置しています。

臨床心理学分野は、臨床心理学の研究と実践を行う人材の育成をめざしています。臨床心理学の専門知識を有し、心理的な困難や苦痛を抱えている人を対象に心理アセスメントや心理面接等を用いてこころの回復を援助する実践家の養成を目的としています。（公）日本臨床心理士資格認定協会より「I種指定校」の認可を受けています。2018年度より、公認心理師の受験資格を取得するためのカリキュラムを設置しています。

**教育目標（福祉心理学分野、臨床心理学分野共通）**

本専攻は、本学の建学の精神である「行学一如」を基盤とし、心理学に関する高度な知識と技術を学び、個人から社会の広義の福祉に幅広い心理学的知見を持ち、心理的援助・実践ができる人材

育成を目標としています。

**アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)**

**1．求める学生像（福祉心理学分野、臨床心理学分野共通)**

(1) 一人ひとりの人権や尊厳を重んずる人間理解を基に福祉心理学専攻の専門領域に強い関心を持ち、これらの領域において研究、実践を行う明確な意志を持っている人。
(2) 心理学の専門的知識・技法を偏りなく幅広く修得する意欲のある人。
(3) 合理的、論理的な思考力、判断力、表現力等の能力のある人。
(4) 主体性を持ちながら多様な人々と協働して研究と実践ができる人。

**2．入学前に培うことを求める力（福祉心理学分野、臨床心理学分野共通)**

(1) 人間関係において主体性を持ちながら他者を尊重し、共感性を持って接し、協働できる力
(2) 大学院で研究と実践を進めるために必要な、四年制大学で学ぶレベルの心理学の基本的な知識・技法（心理学研究法、心理統計法の基礎を含む）と論理的思考、判断力
(3) 学際的な知識の修得のために必要な基礎的英語能力

**3．評価方法**

上記の人材を選抜するために複数の入試制度を設けています。すべての入試において志願理由書と研究計画書等の書類の提出を求め、上記「入学前に培うことを求める力」の項目(1)(2)を評価します。

また、すべての入試において筆記試験を実施し、上記「入学前に培うことを求める力」の項目(2)(3)を評価します（一般選抜試験では専門科目と英語、特別選抜（学内）では小論文、社会人選抜（福祉心理学分野のみ実施）では小論文)。

すべての入試において口述試験（面接）を行い、上記「入学前に培うことを求める力」の項目(1)を評価します。

**カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)**

**1．教育課程編成**

現代社会が複雑化していく中で、個人が自由で円滑な日常生活を送ることが難しくなっており、社会・労働環境もストレスフルな状況に陥る傾向にあります。このような現実に心理学的見地から介入できる専門家を養成すべく、福祉心理学専攻は、福祉心理学分野と臨床心理学分野を設定しています。

福祉心理学分野は、心理学を応用できる現場を広くとらえ、保健、医療、教育なども広く含む福祉の現場や、一般企業等で心理的支援の考え方を踏まえた実践を行う人材の育成をめざしています。例えば、社会福祉士国家試験受験資格や介護福祉士、看護師、作業療法士、理学療法士、教員免許状その他の資格を有しながら、さらにそこに心理的支援の考え方もできる、実践力のある人材の育成を目指します。カリキュラムは、心理学が関連する現場に密接した科目を配置し、学生一人ひとりのニーズに応えられるようにしています（福祉心理学分野では、臨床心理士受験資格、公認心理師受験資格を取得することはできません)。

臨床心理学分野は、人間が置かれている心理的状況や環境に応じて、心理学的アプローチを図るための科目編成をしています。具体的には、心的苦痛が長期化かつ深刻化し日常生活を円滑に過ごしにくい人や、機能低下・不全の状態にある組織を主な対象として、その人の独自な心的世界やその組織特有の構成・機能のアセスメントを行い、こころの回復のための心理療法やコンサルテーションを行う専門家を養成していく科目を編成しています。なお、臨床心理学分野は臨床心理士養成と公認心理師養成のために必要な科目を編成しています。

## 共通事項

### 2．学修方法・学修過程

（1）講義科目（福祉心理学分野、臨床心理学分野共通）

問題解決型学習（PBL）、役割体験学習、課題学習が中心

問題解決型学習（PBL）、役割体験学習、課題学習を行います。院生同士のディスカッション、教員と院生とのディスカッションを行い、学習目的の達成と内容の理解を深めます。

また、社会福祉学専攻、教育学研究科で開講されている科目も選択科目として配置されており、幅広いニーズに応えられるようにしています。

（2）演習科目（福祉心理学分野、臨床心理学分野共通）

ディスカッションによる課題の理解

課題に沿って文献などを通じて調べてまとめ、プレゼンテーションし、院生間、院生と教員間でディスカッションをし、レポートを作成して課題の理解を深めていきます。

（3）実習科目（臨床心理学分野のみ）

学内の附属施設・関連施設と学外の協力機関での実習とケース・カンファレンス

一般市民に開かれた施設である学内の臨床心理相談室、大学附属病院のせんだんホスピタル、関連施設のせんだんの丘および学外の多岐にわたる実習協力機関で行われます。倫理を含めた実習前指導のほか、実習後は実習に関するケース・カンファレンスを通じた指導を行い、院生の共通理解を深めます。

（4）研究指導の内容や方法（福祉心理学分野、臨床心理学分野共通）

教員 2 名による綿密な個別指導と発表会等による集団指導

実証的、論理的な研究を進めるため、院生 1 名につき指導教員、副指導教員を定め、テーマの選定や実証方法・分析方法の選択、論文構成や内容などに関して、綿密な指導を行っています。また、中間発表会・報告会などにより集団指導を行っています。

（5）研究倫理教育（臨床心理学分野、福祉心理学分野共通）

e ラーニングと実習・調査・修論を通じた研究倫理の修得

日本学術振興会の「研究倫理 e ラーニングコース」などにより研究倫理の基本を学修します。そのうえで、実習などでのレポート作成に関しての守秘義務や個人情報の保護などの重要性を指導しています。レポート、修士論文などに関しては、引用文献・参考文献の明示を行い、剽窃のないように作成することを指導しています。調査に関しては、個人情報の保護、個人を特定できないこと、調査を拒否できる権利があることなどを被験者に理解しやすく説明し、インフォームド・コンセントを得る能力を高めるように指導しています。

（6）キャリア支援

福祉心理学分野のキャリア支援

広くウェルビーイングに貢献することをめざすためのキャリア支援

福祉心理学分野を修了する人には、広く人々のウェルビーイングに関わる領域で活躍することを期待します。そのため、一人ひとりのキャリアプランに心理的支援や多職種連携の視点を加えることにより、より実践力を高めることができるよう多面的にサポートします。

臨床心理学分野のキャリア支援

職業倫理教育・学会や研修会への参加

内・外の機関などで実習・調査を行う場合、事前に日本臨床心理士会の倫理綱領に基づく倫理や各機関の職務規程に関するガイダンスを行っています。修了後も外部実習・調査についてのレポート作成と報告などに際して守秘義務と個人情報保護に留意することの指導も行っています。各種学会への入会と参加を極力勧めています。臨床心理学分野では、日本心理臨床学会への入会、研修会へ参加、発表を勧めています。

### 3．学修成果の評価のあり方

学修成果の評価のあり方（福祉心理学分野、臨床心理学分野共通）

教員と学生自身によって評価されます。

教員による評価では、受け身の学修でなく、自らレポート課題、研究課題、実習課題（臨床心理学分野のみ）を設定し、主体的に課題解決に取り組むことを求めています。課題選択のレベル、成果までの過程の分析や結果について、合理的、実証的にまとめているかを重視しています。課題のレポートのまとめ方、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、修了課題のレポート等から総合的に評価をします。学生による評価は、本学独自の学修ポートフォリオによって学びの過程と学位授与の方針の達成度を可視化して確認します。

## ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位の授与に関する方針）

### 1．学生が身に付けるべき資質・能力の目標

（1）心理学諸領域の専門的知識・技能の修得

心理学全般の基礎的素養と専門的知識、技法、姿勢・態度、倫理を修得し、心理的支援に応用できます。

（2）心理学の研究能力の修得

心理学に関する研究課題を自ら設定し、専門的知識や技法を用いて、心理学研究法の方法を使い、研究倫理を踏まえて研究し、その成果を心理的支計画に結び付けることができます。

（3）多角的視点を持った実践

社会の変化（多文化や多様性の共生社会を含む）に伴う要請や各種職域の要請に対応できるよう多次元に渡る広い視点から心理的支援を実践することができます。

（4）知識・実践・研究の融合

心理学の専門的知識、心理実践活動、そして心理学研究の 3 領域を総合することにより、広い視点から心理的支援を実践することができます。

（5）多面的な支援活動

こころの問題への援助、生物・心理・社会的視点からの健康の援助、家族関係の援助、福祉現場での援助、子どもの発達支援、矯正の援助、臨床的地域援助、災害・被害への援助、心理的・社会的適応の支援（チームアプローチ、多職種連携、地域連携などを含む）などを実践できます。

（6）心理臨床の専門家としての活動の基礎（臨床心理学分野のみ）臨床心理学の諸領域を中心に修得する臨床心理学分野では、心理アセスメントや心理療法の基本を身につけ、心理臨床の専門家としての活動の基礎と応用力を身につけます。

### 2．学位授与の要件

福祉心理学分野、臨床心理学分野それぞれの教育目標を理解した上で、福祉心理学分野は必修科目を含む30単位以上を取得すること。臨床心理学分野は必修科目を含む34単位以上を取得すること。必修科目には修士論文の作成と口述試問が含まれます。

## X 課程修了要件

【修士課程】

修了要件は、同課程に 2 年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上（ただし、総合福祉学研究科福祉心理学専攻臨床心理学分野は34単位以上）修得かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文（修士論文）を提出し、論文審査および最終試験に合格しなければならない。

【博士課程】

修了要件は、同課程に 3 年以上在学し、所定の授業科目について18単位以上修得かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文（博士論文）を提出し、論文審査および最終試験に合格しなければならない。

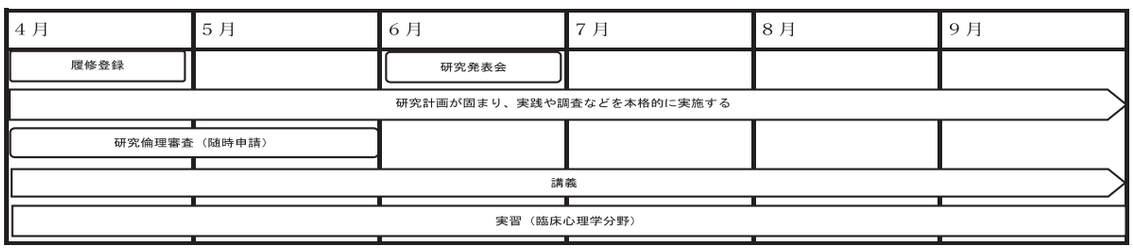
## XI 学　　位

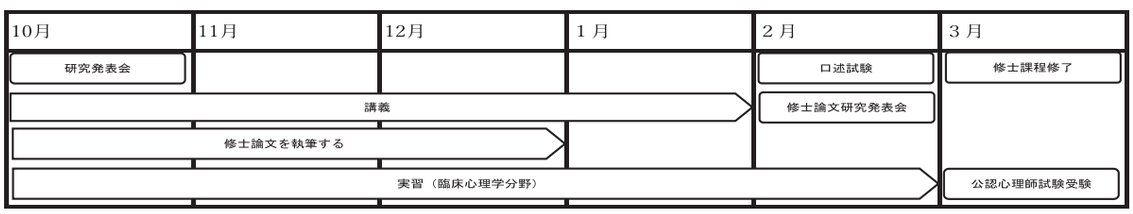
| 研　究　科 | 修　士　課　程 | | 博　士　課　程 | |
|---|---|---|---|---|
| | 専　　攻 | 学　　位 | 専　　攻 | 学　　位 |
| 総合福祉学研究科 | 社会福祉学専攻 | 修士(社会福祉学) | 社会福祉学専攻 | 博士(社会福祉学) |
| | 福祉心理学専攻 | 修士(福祉心理学) | | |

【総合福祉学研究科】修士論文提出・修了までの流れ

（１年目の例）修士論文の作成の準備期間。講義に出席し、単位修得をする。研究テーマを固める。

（２年目の例）指導教員から指導を受けながら、研究を遂行し、修士論文の執筆を行う。



## Ⅻ 開設授業科目一覧

(1) 総合福祉学研究科　社会福祉学専攻（修士課程）

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | | | 履修年次 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択必修 | 選択 | | |
| 研究指導（必修） | 修士論文研究計画法概論 | 1 | | | 1年以上 | 7単位必修 |
| | 社会福祉学研究演習Ⅰ | 2 | | | 1年以上 | |
| | 社会福祉学研究演習Ⅱ | 2 | | | 2年以上 | |
| | 研究指導（論文指導） | 2 | | | 1年以上 | |
| 共通基礎（選択必修） | 社会福祉原論 | | 2 | | 1年以上 | 1科目2単位以上選択履修 |
| | ソーシャルワーク論 | | 2 | | 1年以上 | |
| | ソーシャルワークリサーチ・研究方法論（実践研究・実証研究の方法） | | 2 | | 1年以上 | 2科目4単位以上選択履修 |
| | 社会福祉歴史研究・学説史研究の方法 | | 2 | | 1年以上 | |
| | 情報解析方法論 | | 2 | | 1年以上 | |
| | 質的研究方法論 | | 2 | | 1年以上 | |
| | 福祉プログラム開発と評価 | | 2 | | 1年以上 | |
| 選択科目 | 生活困窮者支援と貧困研究 | | | 2 | 1年以上 | 17単位以上選択履修 |
| | 社会福祉法制・権利擁護研究 | | | 2 | 1年以上 | |
| | 子ども・家庭と女性福祉研究 | | | 2 | 1年以上 | |
| | 高齢者福祉研究Ⅰ | | | 2 | 1年以上 | |
| | 高齢者福祉研究Ⅱ（認知症ケア研究） | | | 2 | 1年以上 | |
| | 高齢者福祉研究Ⅲ（地域連携・多職種連携） | | | 2 | 1年以上 | |
| | 障害者福祉研究Ⅰ | | | 2 | 1年以上 | |
| | 障害者福祉研究Ⅱ（基礎的理解と臨床） | | | 2 | 1年以上 | |
| | 精神保健福祉研究 | | | 2 | 1年以上 | |
| | 医療福祉研究Ⅰ | | | 2 | 1年以上 | |
| | 医療福祉研究Ⅱ（地域連携・多職種連携） | | | 2 | 1年以上 | |
| | 地域福祉研究 | | | 2 | 1年以上 | |
| | 福祉経営・マネジメント研究Ⅰ | | | 2 | 1年以上 | |
| | 福祉経営・マネジメント研究Ⅱ（リスクマネジメント研究） | | | 2 | 1年以上 | |
| | 国際福祉研究 | | | 2 | 1年以上 | |
| | 災害福祉研究 | | | 2 | 1年以上 | |
| | 身体機能障害特論 | | | 2 | 1年以上 | |
| | 特別研究講義Ⅰ | | | 1 | 1年以上 | |
| | 特別研究講議Ⅱ | | | 2 | 1年以上 | |
| | 実践事例検討とスーパービジョン | | | 1 | 1年以上 | |

＊修了要件は、30単位以上とする。
＊履修方法は、必修7単位・選択必修6単位・選択科目17単位以上で、合計30単位以上とする。
＊選択必修科目及び選択科目で超過した単位は、修了要件単位に加算する。

(2) 総合福祉学研究科　福祉心理学専攻（修士課程） 福祉心理学分野

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | | 履修年次 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | | |
| Ⅰ（必修科目） | 福祉心理学特論 | 2 | | 1年以上 | 12単位必修 |
| | 心理学研究法特論 | 2 | | 1年以上 | |
| | 福祉心理学特別研究Ⅰ | 2 | | 1年以上 | |
| | 福祉心理学特別研究Ⅱ | 6 | | 2年 | |
| Ⅱ（選択演習科目） | 発達・教育心理学演習 | | 2 | 1年以上 | 4単位以上選択履修 |
| | 臨床心理学演習 | | 2 | 1年以上 | |
| | 社会心理学演習 | | 2 | 1年以上 | |
| | 神経・生理心理学演習 | | 2 | 1年以上 | |
| | 健康・医療心理学演習 | | 2 | 1年以上 | |
| | 司法・犯罪心理学演習 | | 2 | 1年以上 | |
| Ⅲ（選択科目） | 人格心理学特論 | | 2 | 1年以上 | 14単位以上選択履修 |
| | 認知心理学特論 | | 2 | 1年以上 | |
| | 教育臨床学特論（教育分野に関する理論と支援の展開） | | 2 | 1年以上 | |
| | 心の健康教育に関する理論と実践 | | 2 | 1年以上 | |
| | 家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践） | | 2 | 1年以上 | |
| | 人間関係学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開） | | 2 | 1年以上 | |
| | 老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開） | | 2 | 1年以上 | |
| | 犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開） | | 2 | 1年以上 | |
| | 精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ） | | 2 | 1年以上 | |
| | 障害児・者の心理特論 | | 2 | 1年以上 | |
| | 臨床発達心理学特論 | | 2 | 1年以上 | |
| | 発達障害者教育学特論 | | 2 | 1年以上 | |
| | 特別研究講義Ⅰ | | 1 | 1年以上 | |

＊修了要件は、30単位以上とする。
＊履修方法は、必修12単位・選択演習4単位・選択科目14単位以上で、合計30単位以上修得すること。
＊選択演習科目及び選択科目で超過した単位は、修了要件単位に加算する。

(3) 総合福祉学研究科　福祉心理学専攻（修士課程） 臨床心理学分野

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | | | 履修年次 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択必修 | 選択 | | |
| I（研究指導） | 研究指導Ⅰ | 4 | | | 1年以上 | |
| | 研究指導Ⅱ | 4 | | | 2年 | |
| II（必修科目） | 臨床心理学特論Ⅰ | 2 | | | 1年以上 | |
| | 臨床心理学特論Ⅱ | 2 | | | 1年以上 | |
| | 臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践） | 2 | | | 1年以上 | |
| | 臨床心理面接特論Ⅱ | 2 | | | 1年以上 | |
| | 臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践） | 2 | | | 1年以上 | |
| | 臨床心理査定演習Ⅱ | 2 | | | 1年以上 | |
| | 臨床心理基礎実習 | 2 | | | 1年以上 | |
| | 臨床心理実習 | 2 | | | 2年 | |
| III（選択必修科目） | 心理学研究法特論 | | 2 | | 1年以上 | A群 |
| | 臨床心理学研究法特論 | | 2 | | 1年以上 | |
| | 認知心理学特論 | | 2 | | 1年以上 | B群 |
| | 人格心理学特論 | | 2 | | 1年以上 | |
| | 教育臨床学特論（教育分野に関する理論と支援の展開） | | 2 | | 1年以上 | |
| | 犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開） | | 2 | | 1年以上 | C群 |
| | 人間関係学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開） | | 2 | | 1年以上 | |
| | 家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践） | | 2 | | 1年以上 | |
| | 老年心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開） | | 2 | | 1年以上 | D群 |
| | 精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ） | | 2 | | 1年以上 | |
| | 臨床精神病理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ） | | 2 | | 1年以上 | |
| | 心理療法特論Ⅰ | | 2 | | 1年以上 | E群 |
| | 心理療法特論Ⅱ | | 2 | | 1年以上 | |
| | 投映法特論 | | 2 | | 1年以上 | |
| IV（選択科目） | 心の健康教育に関する理論と実践 | | | 2 | 1年以上 | |
| | 臨床心理学実践実習（心理実践実習） | | | 10 | 1年以上 | |

＊修了要件は、34単位以上とする。
＊履修方法は、必修科目24単位・選択必修科目10単位以上・選択科目で合計34単位以上修得すること。
　なお、選択必修科目は、A群～E群の各群からそれぞれ2単位以上を取得すること。
＊選択必修科目で超過した単位は、修了要件単位に加算する。
＊公認心理師受験資格の取得方法については、別に定める。

### ⑷　総合福祉学研究科　社会福祉学専攻（博士課程）

| 区分 | 授業科目 | 単位数 | | 履修年次 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 論文指導 | 博士論文指導Ⅰ | 4 | | 1年以上 | 必修12単位 |
| | 博士論文指導Ⅱ | 4 | | 1年以上 | |
| | 博士論文指導Ⅲ | 4 | | 1年以上 | |
| 演習 | 研究演習Ⅰ A | 2 | | 1年 | 必修6単位 |
| | 研究演習Ⅰ B | | 2 | 1年 | |
| | 研究演習Ⅱ A | 2 | | 2年 | |
| | 研究演習Ⅱ B | | 2 | 2年 | |
| | 研究演習Ⅲ A | 2 | | 3年 | |
| | 研究演習Ⅲ B | | 2 | 3年 | |

＊修了要件は、18単位以上とする。
＊履修方法は、必修18単位修得することとする。
＊選択科目で修得した単位は、修了要件単位に加算する。

## XIII 長期履修学生規程

（趣　　旨）

第1条　この規程は、東北福祉大学（以下「本学」という。）における大学院学則（以下「大学院学則」という。）第7条の2に基づき、長期履修に関して必要な事項を定める。

（対　象　者）

第2条　本学大学院において、長期履修を申請できる者は、本学の通学課程の大学院に入学または在学し、授業科目を履修する者で、次の各号のいずれかに該当し、その事情により学修の時間が制限されるため標準修業年限で修了することが困難となる者とする。

⑴　職業を有し、修業している者（自営業、臨時雇用（単発的なものを除く）、非常勤等を含む）で、修業年限内での修学が困難である者。

⑵　学費を支払うために就労している者。

⑶　家事、育児、介護等などの事情により、修業年限内での修学が困難である者。

⑷　学外の地域で3カ月以上の長期滞在の地域貢献および地域共創学修を行う者（以下「長期滞在地域学修学生」という。）

⑸　その他やむを得ない事情を有すると学長が認めた者。

2　一定の期間履修することができない場合は、該当しない。

（申請の手続）

第3条　長期履修学生となることを希望する入学予定者は入学願書提出時に、在学生で新たに長期履修を希望する場合においては長期履修開始年度の前年度の2月末日までに、長期履修学生申請書（様式第1号）に次に掲げる該当書類を添えて、学長に願い出なければならない。但し、在学生のうち、最終年次に在学する者は申請できない。

⑴　長期履修申請書（様式第1号）所定用紙

⑵　在職証明書または在職が確認できる書類

⑶　臨時雇用の者については、1週間当たりの勤務時間数を記載した雇用先の証明または1週間当たりの勤務時間数を確認できる書類

⑷　家事、育児、介護等を行う必要がある者については、それを確認できる書類

⑸　長期滞在地域学修学生については、それを確認できる書類または地域創生推進センター地域創生推進室が証明する書類

⑹　その他学長が必要と認める書類

2　申請にあたって、在学生および入学生は長期履修が必要となる理由および長期履修計画を提出する。また、在学生は指導教員の意見を提出する。ただし、在学生のうち外国人留学生は、学生支援センター国際交流支援室長の意見の提出も認める。

3　申請が許可された場合、原則として、長期履修期間中は授業料減免が適用されない。

（許　　可）

第4条　長期履修の申請について、研究科委員会の議を経て、学長が許可する。

2　長期履修を許可した場合は、長期履修学生許可書（様式第2号）により通知する。

（長期履修期間）

第 5 条　標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを認められる期間（以下「長期履修期間」という。）は、年度単位とし、次の各号に掲げるとおりとする。

⑴　入学から長期履修となる場合は、最大 3 年間とする。

⑵　在学途中から長期履修となる場合は、残りの修業年数の 2 倍に相当する年数以内とする。

2　大学院学則第 8 条に定める在学年限は、延長されず、適用されるものとする。

3　休学の期間は、長期履修期間に算入しない。

（授業料等の納付金）

第 6 条　長期履修期間の授業料等の納付金については別に定める。

（長期履修期間の変更）

第 7 条　許可された長期履修期間の短縮または延長を希望する場合は、2 月末までに、長期履修変更申請書（様式第 3 号）および第 3 条第 2 号から第 7 号で該当する書類を研究科長に提出するものとする。ただし、変更は 1 回限りとする。また、長期履修期間の最終年次に在学する者は変更申請できない。

2　長期履修の変更の申請について、研究科委員会の議を経て、学長が許可する。

（許可の取消）

第 8 条　長期履修申請に関し、次の各号に掲げることが明らかになった場合は、研究科委員会の議を経て学長が長期履修の許可を取り消すことができる。

⑴　虚偽の長期履修申請をした場合

⑵　長期履修の学生として不適格な場合

（事　　務）

第 9 条　長期履修に関する事務は、大学院事務室（ウェルコム21事務室）が行う。

（補　　則）

第10条　この規程に定めるもののほか、長期履修に関し必要な事項は、別に定める。

附　　則

1．この規程は、平成27年 4 月 1 日から施行する。

2025年度

# 東北福祉大学大学院

## 総合福祉学研究科

## 修士課程・博士課程
## 入学試験過去問題

（令和４年度～令和６年度）

# 入学試験過去問題目次

〔修士課程〕

社会福祉学専攻（一般選抜）…… 1

社会福祉学専攻（社会人選抜）…… 3

社会福祉学専攻（特別選抜）…… 4

福祉心理学専攻福祉心理学分野（一般選抜）…… 5

福祉心理学専攻臨床心理学分野（一般選抜）…… 5

福祉心理学専攻臨床心理学分野（社会人選抜）…… 11

福祉心理学専攻臨床心理学分野（特別選抜）…… 12

〔博士課程〕

社会福祉学専攻（一般選抜）…… 15

# 社会福祉学専攻

## 修士課程

## 一般選抜・社会人選抜・特別選抜

令和4年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅰ期）

## 社会福祉学専攻【関連科目】問題

● **必修問題**

**①全員解答しなさい。**
**②解答は別紙必修問題用解答用紙に記入し、300字以上700字以内で答えなさい。**

「社会保障制度における「社会福祉」の位置と役割について、説明してください。」

● **選択問題**

**①次の選択問題【1】～【3】より 2 問選択し、解答しなさい。**
**②解答は論題番号が記されている別紙解答用紙に記入し、300字以上700字以内で答えなさい。**

【選択問題１】
ソーシャルワークには、ミクロからマクロ・レベルへ連続する視点があることについて、説明しなさい。

【選択問題２】
社会的孤立に対する地域福祉の役割・対応について述べなさい。

【選択問題３】
介護保険制度のこれまでの改正の概要について、簡潔に述べなさい。

令和5年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅰ期）

## 社会福祉学専攻【関連科目】問題

● **必修問題**

**①全員解答しなさい。**
**②解答は別紙必修問題用解答用紙に記入し、300字以上700字以内で答えなさい。**

福祉元年、並びに日本型福祉論について説明してください。

● **選択問題**

**①次の選択問題【1】～【3】より 2 問選択し、解答しなさい。**
**②解答は論題番号が記されている別紙解答用紙に記入し、300字以上700字以内で答えなさい。**

【選択問題１】
障害がある人を、権利行使の主体としてとらえるとは、どのようなことか説明しなさい。

【選択問題２】
重層的支援体制整備事業における社会参加支援の意義を述べなさい。

【選択問題３】
ソーシャルワークにおける諸アプローチのうち、2つのアプローチを選択し、その理論と実践への応用について述べなさい。

## 令和6年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅰ期）

# 社会福祉学専攻【関連科目】問題

● **必修問題**

**①全員解答しなさい。**

**②解答は別紙必修問題用解答用紙に記入し、300字以上700字以内で答えなさい。**

21 世紀日本社会の福祉政策の起点としての社会福祉基礎構造改革の基本的方向について、述べてください。

● **選択問題**

**①次の選択問題【1】～【3】より 2 問選択し、解答しなさい。**

**②解答は論題番号が記されている別紙解答用紙に記入し、300字以上700字以内で答えなさい。**

【選択問題 1 】

社会福祉協議会の事業・活動について、説明しなさい。

【選択問題 2 】

ソーシャルワークにおける「問題解決アプローチ」について、その理論的背景を踏まえて、今日のソーシャルワーク実践における意義を述べなさい。

【選択問題 3 】

日本における少子高齢化の現状と課題について、述べなさい。

## 令和3年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅱ期）

# 社会福祉学専攻【関連科目】問題

● **次の問題【1】～【3】より 2 問選択し、解答しなさい。**

【問題 1 】

「8050問題」といわれる現代社会の問題に、ソーシャルワークが果たすべき機能は何か、述べなさい。

【問題 2 】

下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。

ソーシャルワークにおける「ストレングス・アプローチ」について、その理論的背景を踏まえて、今日のソーシャルワーク実践における意義を述べなさい。

【問題 3 】

成年後見制度について、説明しなさい。

## 令和5年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅱ期）

# 社会福祉学専攻【関連科目】問題

● **必修問題**

**①全員解答しなさい。**

**②解答は別紙必修問題用解答用紙に記入し、300字以上700字以内で答えなさい。**

イギリスの COS、及びセツルメントについて説明しなさい。

● **選択問題**

**①次の選択問題【1】～【3】より 2 問選択し、解答しなさい。**

**②解答は論題番号が記されている別紙解答用紙に記入し、300字以上700字以内で答えなさい。**

【選択問題１】
　日本におけるコミュニティケアの理念について、知るところを述べなさい。
【選択問題２】
　重層的支援体制整備事業における「地域づくりへの支援」の意義を述べなさい。
【選択問題３】
　ソーシャルワークにおける「スーパービジョン」の機能について説明するとともに、実践現場における「スーパービジョン」の必要性と意義について述べなさい。

## 令和6年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅱ期）
## 社会福祉学専攻【関連科目】問題

**● 必修問題**

**①全員解答しなさい。**
**②解答は別紙必修問題用解答用紙に記入し、300字以上700字以内で答えなさい。**

　ナショナル・ミニマムとシビル・ミニマムの相違について述べなさい。

**● 選択問題**

**①次の選択問題【1】～【3】より２問選択し、解答しなさい。**
**②解答は論題番号が記されている別紙解答用紙に記入し、300字以上700字以内で答えなさい。**

【選択問題１】
　「日常生活自立支援事業」について、説明しなさい。
【選択問題２】
　地域包括ケアシステムとは何か、またそれが必要とされる背景について述べなさい。
【選択問題３】
　令和５年度の厚生労働白書では「つながり・支え合いのある地域共生社会」がテーマとなっていた。このテーマのような社会を構築するためには、ソーシャルワークのどのような機能を発揮することがソーシャルワーカーに求められているか。あなたが必要と考える機能を３つあげ、その理由を述べなさい。

## 令和3年度　東北福祉大学大学院修士課程（社会人選抜）入学試験（Ⅱ期）
## 社会福祉学専攻【小論文】問題

**①下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**
**②解答は別紙解答用紙に記入しなさい。**

　社会福祉の立場から、「優生思想」を批評しなさい。

## 令和4年度　東北福祉大学大学院修士課程（社会人選抜）入学試験（Ⅰ期）
## 社会福祉学専攻【小論文】問題

**①下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**
**②解答は別紙解答用紙に記入しなさい。**

　ソーシャルワークにおける、ストレングスとエンパワメントの考え方について、あなたの考えを述べなさい。

## 令和6年度　東北福祉大学大学院修士課程（社会人選抜）入学試験（Ⅱ期）
## 社会福祉学専攻【小論文】問題

**①記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**
**②解答は別紙解答用紙に記入しなさい。**

〈問題文〉
孤独・孤立、引きこもり、8050問題、自殺などの問題は、どのようにして生じるか、あなたの考えを述べなさい。

## 令和4年度　東北福祉大学大学院修士課程（特別選抜）入学試験（Ⅰ期）
## 社会福祉学専攻【小論文】問題

**①下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**
**②解答は別紙解答用紙に記入しなさい。**

「バルネラビリティと社会的排除について、あなたの考えを述べなさい。」

## 令和5年度　東北福祉大学大学院修士課程（特別選抜）入学試験（Ⅰ期）
## 社会福祉学専攻【小論文】問題

**①下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**
**②解答は別紙解答用紙に記入しなさい。**

〈問題文〉
共生社会の実現のために、あなたが必要と思うことについて論じなさい。

## 令和6年度　東北福祉大学大学院修士課程（特別選抜）入学試験（Ⅰ期）
## 社会福祉学専攻【小論文】問題

**①下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**
**②解答は別紙解答用紙に記入しなさい。**

〈問題文〉
ソーシャルワークにおける科学的根拠に基づいた実践（EvidenceBasedPractice）の意義について述べなさい。

## 令和5年度　東北福祉大学大学院修士課程（特別選抜）入学試験（Ⅱ期）
## 社会福祉学専攻【小論文】問題

**①下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**
**②解答は別紙解答用紙に記入しなさい。**

救貧政策における「劣等処遇の原則」について、自らの見解を述べてください

# 福祉心理学専攻

## 修士課程

## 一般選抜・社会人選抜・特別選抜

令和5年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅱ期）

## 福祉心理学専攻　福祉心理学分野【関連科目】問題

**①次の問題【1】～【3】について、解答しなさい。**
**②解答は、論題番号が記されている別紙解答用紙に記入しなさい。**

【問題 1】
　下記の設問にすべて答えなさい。

＜設問 1 ＞
　近代心理学の成立について説明しなさい。
＜設問 2 ＞
　近代心理学を批判する 3 つの潮流について説明しなさい。
＜設問 3 ＞
　現代における心理学の広がりに言及した上で、心理学が社会にどのように貢献しうるかについて、あなたの考えを述べなさい。

【問題 2 】
　三項随伴性の観点から不登校のメカニズムを論じなさい。

【問題 3 】
　以下の 4 つの用語・概念のうち、2 つを選び説明せよ。
　なお回答にあたっては所定欄に選んだ用語・概念の番号を必ず記入すること。

(1) 感覚の順応
(2) アンダーマイニング効果
(3) ステレオタイプ
(4) 系統的脱感作法

令和4年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅰ期）

## 福祉心理学専攻　臨床心理学分野【関連科目】問題

**①次の問題【1】～【3】について、解答しなさい。**
**②解答は、論題番号が記されている別紙解答用紙に記入しなさい。**

【問題 1 】
　次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。
　東日本大震災から10年の月日が流れた。その間人々は①生きることの意味、死すことの意味について、沢山の事を一生懸命考えてきた。②自分と真剣に向き合ってもきた。答えは得られなかったかもしれないが、その月日の中で、③良しにつけ悪しきにつけ色々な事を体験してきたのである。

＜設問 1 ＞
　①において、ユング（JungC.G）の「死と再生」の考えについて詳しく論じなさい。

＜設問２＞
②の自己概念について、フロイト（FreudS）とロジャーズ（RogersC.R）の理論の違いがよくわかるように説明しなさい。
＜設問３＞
③の体験の中には、mourningwork や griefcounseling があげられる。
１）mourningwork　２）griefcounseling について違いが分かるように説明しなさい。
＜設問４＞
東日本大震災の今後10年後に向けて、心理臨床が出来ることは何か論じなさい。

【問題２】
下記＜(1) ～ (4)＞について、それぞれの語に続く（　）内に示された語句を全て用いて、説明しなさい。

(1) MMSE（Mini-MentalStateExamination, 短時間，鑑別）
(2) もの想い／アルファ機能（reverie/alphafunction,Bion, 苦痛）
(3) 再接近期（rapprochement,Mahler, 観察法）
(4) スーパーヴィジョン（スーパーヴァイザー、グループ、教育分析）

【問題３】
学校不適応について、その要因と支援方略について論じなさい。

## 令和5年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅰ期）
## 福祉心理学専攻　臨床心理学分野【関連科目】問題

**①次の問題【1】～【3】について、解答しなさい。**
**②解答は、論題番号が記されている別紙解答用紙に記入しなさい。**

【問題１】
コロナ禍における自殺の問題がマスコミ等で取り上げられている。自殺対策の３段階として「プリベンション（prevention）」「インターベンション（intervention）」「ポストベンション（postvention）」がある。それぞれの特徴について違いが分かるように、論述しなさい。

【問題２】
次の文章を読み、下記の設問（１～６）に答えなさい。

会社員の A さん(24才、男性）はあるとき無断で会社を休んでしまい、出勤できない日が続きました。そういった様子の A さんに対して①上司の管理職は、産業保健室の保健師さんに相談した上で、A さんに精神科受診を勧めました。②精神科を受診した A さんは、適応障害の診断で３カ月休職することとなりました。休職中は、仕事のことを考えることなく穏やかに過ごせていたのですが、休職期間の終りが近づくと、出勤を考えて落ち着かず、食欲もなく夜も眠れなくなりました。主治医から、さらに３カ月ほど休職をするように言われ、また、主治医の勧めで、A さんは③臨床心理士／公認心理師による心理カウンセリングに通うようになりました。
実は、A さんは就職してすぐにお客様窓口に配属されていました。お客様の困りごとを解決するのは達成感を伴う仕事でしたが、苦情対応も担当することになり、自分への非難ではない

と頭では理解しつつも、電話の向こうの厳しい口調を耳にするたびに④不快になっていました。2年目になると、新入社員が入ってきてお客様対応をするようになりました。その後輩はそつなくこなしているようで、Aさんはその後輩と自分とを比較して、後輩に追いぬかれてし

まうのではないかと焦っていたようです。こういったことを心理カウンセリングの場で話している中で、Aさんは自分が⑦（　　）でありたいという理想像とは異なっていることを認められず、非難されることを過度に恐れていたことに気づいていきました。不眠や食欲減退は改善しましたが、まだ苦情対応には耐えられそうもなく、復職は難しいと感じていました。

Aさんの休職期限があと3カ月となった時点で、Aさんは復職のためのリワーク・プログラムに参加することにしました。⑤参加の可否を見極めるために心理検査が実施されました。その結果参加が適切との判断を経てグループに参加したAさんは、同様の体験をしている参加者との話し合いを通じて、仕事が完璧にできる自分でなくともよいことを実感して復職し、⑥管理職らの配慮のもとで以前と同じ仕事に励んでいます。

＜設問1＞

下線部①および⑥の管理職による部下の事例性の把握は、労働安全衛生法に基づく「労働者の心の健康の保持増進のための指針」で推進されるべき以下のケアのうち何に該当するか。(1)～(4)のうち1つを選択して答えなさい。

| |
|---|
| (1) セルフケア、(2) ラインによるケア、(3) 事業場内産業保健スタッフ等によるケア、(4) 事業場外資源によるケア |

＜設問2＞

下線部②は、Aさんにとって、上記のケアのうち何に該当するか。

(1)～(4)のうち1つを選択して答えなさい。

＜設問3＞

下線部③においては面接構造が重視されるが、以下の3つの面接構造について、なぜそれらがAさんの心理カウンセリングにおいて重要と考えられるのだろうか。1）から3）の各項目に沿って記述しなさい。

1）一定の曜日と時間に、同じ部屋で面接が設定されること

2）Aさんの思いを理解していくことを目標とすること

3）有料であること

＜設問4＞

下線部④では、Aさんの感情・情動がその背景にあることがうかがわれるが、どのような感情・情動と考えられるか。5文字以内で答えなさい。

＜設問5＞

下線部⑦では、Aさんの「～でありたい」という思いが述べられている。

（　　）内に入る適切な語句を1つないし3つ挙げなさい。

＜設問6＞

下線部⑤において心理検査を2つ組み合わせて実施する場合、あなたが必要かつ適切と考えるものを挙げ、それら2つの心理検査を選択した理由を選択した心理検査の「方法」と「何を検査しているか」を含めて説明しなさい。

【問題３】

次の４つの用語・概念のうち２つを選び、それぞれ含まれるもの（種類・項目・段階）を挙げながら説明せよ。なお回答にあたっては所定欄に選んだ用語・概念の番号を必ず記入すること。

（1）ヒューリスティック
（2）失認
（3）長期記憶
（4）ピアジェの発達段階説

## 令和6年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅰ期）
## 福祉心理学専攻　臨床心理学分野【関連科目】問題

**①次の問題【1】～【3】について、解答しなさい。**
**②解答は、論題番号が記されている別紙解答用紙に記入しなさい。**

【問題１】

アタッチメントに関する障害の中で、反応性アタッチメントの障害の特徴について詳しく説明しなさい。

【問題２】

心理学的支援における秘密保持の例外について、以下の設問（1 ～ 2）に答えなさい。

＜設問１＞

秘密保持の例外について、その具体的状況を述べなさい。

＜設問２＞

そのような状況では、心理専門職としてどのような対応や行動が必要かについて、論じなさい。

【問題３】

以下の４つのうち２つを選び、学術的背景や関連する専門用語に触れながら説明しなさい。なお回答にあたっては所定欄に選んだ用語・概念の番号を必ず記入すること。

（1）注意の仕組み
（2）記憶の歪み
（3）SR 理論と認知理論
（4）援助行動

# 福祉心理学専攻　臨床心理学分野【関連科目】問題

**①次の問題【1】～【3】について、解答しなさい。**
**②解答は、論題番号が記されている別紙解答用紙に記入しなさい。**

【問題１】

心理学的支援における「見立て」と、医学的「診断」について、下記の《設問 1》・《設問 2》に答えなさい。

＜設問１＞
「見立て」と「診断」の異同を述べなさい。
＜設問２＞
「見立て」と「診断」における、心理専門職の役割を述べなさい。

【問題２】

社会心理学における傍観者効果（bystandereffect）について、下記の設問（１～３）に答えなさい。

＜設問１＞
傍観者効果の定義を、提唱者とともに示しなさい。
＜設問２＞
傍観者効果を促進する要因について論じなさい。
＜設問３＞
日常場面における援助行動の困難さについて、傍観者効果の観点から論じなさい。

【問題３】

以下の４つの用語・概念のうち、２つを選び説明せよ。
なお回答にあたっては所定欄に選んだ用語・概念の番号を必ず記入すること。

(1) ナラティヴセラピー
(2) 躁的防衛
(3) 自閉スペクトラム症
(4) バランス理論

## 令和5年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅱ期）

# 福祉心理学専攻　臨床心理学分野【関連科目】問題

**①次の問題【1】～【3】について、解答しなさい。**
**②解答は、論題番号が記されている別紙解答用紙に記入しなさい。**

【問題１】
　下記の設問にすべて答えなさい。

＜設問１＞
　近代心理学の成立について説明しなさい。
＜設問２＞
　近代心理学を批判する３つの潮流について説明しなさい。
＜設問３＞
　現代における心理学の広がりに言及した上で、心理学が社会にどのように貢献しうるかについて、あなたの考えを述べなさい。

【問題２】
　心理的アセスメントにおけるテストバッテリーについて、下記の設問１・２に答えなさい。

＜設問１＞
　テストバッテリーの目的と意義について論じなさい。
＜設問２＞
　施行する際の留意点やクライエントに対する配慮について、具体的に論じなさい。

【問題３】
　以下の４つの用語・概念のうち、２つを選び説明せよ。
　なお回答にあたっては所定欄に選んだ用語・概念の番号を必ず記入すること。

(1) 感覚の順応
(2) アンダーマイニング効果
(3) ステレオタイプ
(4) 系統的脱感作法

## 令和6年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅱ期）

# 福祉心理学専攻　臨床心理学分野【関連科目】問題

**①次の問題【1】～【3】について、解答しなさい。**
**②解答は、論題番号が記されている別紙解答用紙に記入しなさい。**

【問題１】
　下記の設問にすべて答えなさい。

＜設問１＞
　学習における連合理論について説明しなさい。

＜設問２＞
学習における認知理論について説明しなさい。
＜設問３＞
連合理論と認知理論の相違点を踏まえて、あなたの学習観について論じなさい。

【問題２】
下記の設問１・２に答えなさい。

＜設問１＞
心理検査における侵襲性について説明しなさい。
＜設問２＞
心理面接においてクライエントの内面を深めながらも侵襲的にならないためにはどのような配慮や工夫が求められるか，具体例を挙げて説明しなさい。

【問題３】
下記の（1）～（4）について、２題を選択し、それぞれの語に続く（）内に示された語句をすべて用いて、説明しなさい。
なお解答にあたっては所定欄に選んだ用語・概念の番号を必ず記入すること。

（1）NEO PR-R（5 因子 ,5 件法，プロフィール）
（2）コンプレックス（心的複合体 , Oedipus complex, inferiority complex）
（3）ひとりでいられる能力（capacity to be alone, Winnicott, 二人）
（4）WAIS-IV（Wechsler, CHC 理論，成人）

## 令和3年度　東北福祉大学大学院修士課程（社会人選抜）入学試験（Ⅰ期）
## 福祉心理学専攻　臨床心理学分野【小論文】問題

● **下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**

「心理学者の霜山は心理療法家にとって重要なものとして「自燈明」を挙げて、以下のように述べています。」

心理療法家にとって次に重要なのはアッタディーパ（attadipa）すなわち「自燈明」ということである。このバーリ語から由来する言葉は「おのれの道をおのれで選び、その明かりを照らしてすすむ」ということである。一見、当然のことと想えるが、実はきわめて困難である。「各人は各人の心理療法を持つ」ということは実はそれほど容易なことではない。ただの詰め将棋のような、また旦那芸のような心理療法では駄目である。そして自分の器量に適合した心理療法に到達しないで、自分が最初に接した流派にそのまま巻き込まれてしまう人々も少なくない。
出典（霜山徳爾『共に生き、共に苦しむ私の「夜と霧」』河出書房新社、2005、p.101）

これを踏まえて、あなたにとって、①心理療法において重要なことは何か、
また②心理療法を学ぶこととはどのようなことであるかを、述べてください。

## 令和4年度　東北福祉大学大学院修士課程（社会人選抜）入学試験（Ⅰ期）
## 福祉心理学専攻　臨床心理学分野【小論文】問題

**①下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**
**②解答は別紙解答用紙に記入しなさい。**

面接における終結についてのあなたの考えを述べなさい。

## 令和4年度　東北福祉大学大学院修士課程（特別選抜）入学試験（Ⅰ期）
## 福祉心理学専攻　臨床心理学分野【小論文】問題

**①下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**
**②解答は別紙解答用紙に記入しなさい。**

「臨床心理学におけるイメージと物語の関係について論じなさい。」

## 令和5年度　東北福祉大学大学院修士課程（特別選抜）入学試験（Ⅰ期）
## 福祉心理学専攻　臨床心理学分野【小論文】問題

**①下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**
**②解答は別紙解答用紙に記入しなさい。**

〈問題文〉

1932年にアインシュタインは、誰でも好きな人を選んで今もっとも大切な問いについて意見を交換できるという国際連盟の提案に応じて「人間を戦争というくびきから解き放つことはできるのか？」という問いを手紙でフロイトに投げかけました。フロイトはその手紙への返信において、人には「保持し統一しようとする欲動」と「破壊し殺害しようとする欲動」があり、そのどちらもがもう一方の欲動と結びついていて、どちらも人間にはなくてはならないものであること、また、それらを理性のコントロール下におくことはユートピア的な希望に過ぎないことを述べています。その手紙の後半でフロイトは、戦争に憤りを覚えるのはなぜかという問いを掲げ、文化が人間の心のあり方に変化を引き起こし、戦争への嫌悪感を生み出すのだとし、「文化の発展を促せば、戦争の終焉へ向けて歩み出すことができる！」と結んでいます（アインシュタイン，フロイト，浅見昇吾訳『ひとはなぜ戦争をするのか』講談社学術文庫, 2016）。このフロイトの言葉は逆説的な表現であると読むこともできるでしょう。

この議論から90年を経た現在、フロイトが言うように、上記の相反する二つの欲動を理性のコントロール下におくことはかなっていないようです。また、戦争への嫌悪感は遍く行き渡っているように見えますが、戦争の終焉は見られません。「文化の発展を促せば、戦争の終焉へ向けて歩み出すことができる」という見解に対して批判的に議論を展開してください。

令和6年度　東北福祉大学大学院修士課程（特別選抜）入学試験（Ⅰ期）

## 福祉心理学専攻　臨床心理学分野【小論文】問題

**①下記の問題文を読み、1000字以上1400字以内で答えなさい。**
**②解答は別紙解答用紙に記入しなさい。**

〈問題文〉

心理療法において、睡眠中に見る夢についてどう取り扱うかについて、歴史的な背景を踏まえて述べなさい。

# 社会福祉学専攻

## 博士課程

## 令和2年度　東北福祉大学大学院博士課程（一般選抜）入学試験

### 社会福祉学専攻【専門科目】問題

**● 次の【問題１】～【問題３】より１問選択し、解答しなさい。**

【問題１】

わが国における福祉元年の意味を述べるとともに、それ以前と以降の社会福祉政策の相違を公私関係の変容の視点から論じなさい。

【問題２】

以下は、篭山京・江口英一の見解である。これを論評しなさい。

「最も弱い一人のケースは、全体に関わっているのである。資本主義社会のいちばん下辺の、そのまた最底辺に横たわっているものを守ることは、この不安定なものの上に組み上げられている集団を守っていくことになる。もしも全体が安定していて、その不安定なものが切りはなされた一部にすぎないなら、その一部を手術でもするように切り捨ててしまうこともできる。しかし全体が不安定で、それが特定のものの不安定に連鎖している以上、必死でそれを守らざるを得ないのである。」　（出典：篭山京・江口英一『社会福祉論』光生館、1974年、46頁）

【問題３】

社会福祉の立場からみた、成年後見制度の問題点について述べなさい。

## 令和4年度　東北福祉大学大学院博士課程（一般選抜）入学試験

### 社会福祉学専攻【専門科目】問題

**①次の選択問題【1】～【3】より１問選択し、解答しなさい。**
**②解答は論題番号が記されている別紙解答用紙に記入し、300字以上700字以内で答えなさい。**

【選択問題１】

人の一生と社会福祉との関連を、具体的施策及びサービスを挙げなら具体的に論じなさい。

【選択問題２】

ソーシャルワークにおけるポストモダン思考に基づいた理論・実践アプローチについて説明するとともに、それらの今日的福祉実践に与える影響と課題について論じなさい。

【選択問題３】

福祉政策において用いられる「必要（あるいはニード、ニーズとも）」とは何か、説明しなさい。

2025年度

# 東北福祉大学大学院

## 総合福祉学研究科

## 修士課程・博士課程
## 入学試験過去問題（英語）

（令和４年度～令和６年度）

# 入学試験過去問題（英語）目次

〔修士課程〕

社会福祉学専攻（一般選抜）…… 1
福祉心理学専攻（一般選抜）…… 5

〔博士課程〕

社会福祉学専攻（一般選抜・社会人選抜共通）…… 13

# 社会福祉学専攻

## 修士課程

令和3年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅱ期）

## 社会福祉学専攻【英語】問題

● 以下の文章はソーシャルワークにおけるテクノロジーの使用と倫理について述べたものです．全文を訳しなさい．尚，固有名詞を訳す必要はありません．

Technology is constantly changing the ways social workers provide services. In response, collaboration between the NASW, the CSWE, the ASWBb, and the Clinical Social Work Association resulted in a set of standards for social work practice related to technology. One standard is related to the provision of information to the public. Social workers should provide information from reputable sources and should be cautious about what information about them is available to others online. Another standard suggests that service design and delivery should follow the same ethical requirements as any other service. Services should be designed and delivered using technology only under the following conditions: when in-person services are not necessary, when services can be confidential, when boundaries can be maintained, when the worker can confirm the client's identity, and when technology is accessible and available to both worker and client. Another standard refers to gathering, managing, and storing information. It suggests social workers be aware that information can be lost or misrouted, that clients have the right to see their records, and that workers are responsible to keep their professional and personal records separate. Finally, supervisors and field instructors should be aware of their agency's policies related to technology.

Gasker, Janice (2019) *Generalist social work practice*, Sage.

令和4年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅰ期）

## 社会福祉学専攻【英語】問題

● 次の英文を読んで、日本語に訳しなさい。
なお解答は、別紙解答用紙に記入してください。

The dominant philosophy in gerontological social work and in much of the aging services network is the importance of facilitating "aging in place." This approach emphasizes that older adults function best and have the best mental health when they age in a place they feel is best for them. For many older adults, this is their own home or apartment. It can also be another noninstitutional setteing they choose, such as independent or assisted living. The most important thing is that they get to decide where they want to grow older, even if it means they will need additional environmental supports to stay in that place (Alley, Liebig, Pynoos, Banerjee, & Choi, 2007). This approach also recognizes that " home" means more to older adults than just housing. " Home" means privacy, independence, security, and freedom to the many older adults who dread the thought of spending the end of their lives away from all that is familiar to them. Sometimes it is indeed a challenge for a social worker to watch an older adult cling fiercely to a dilapidated dwelling rather than go to a modern apartment, even in an independent living complex. It is difficult to watch an older adult insist on staying in his or her old neighborhood, even when it is no longer safe for them to do so.

出典：McInnis-Dittrich, Kathleen (2009) *Social Work with Older Adults: A Biopsychosocial Approach to Assessment and Intervention 3rd edition*, Allyn & Bacon, p.343-345.

令和5年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅰ期）

## 社会福祉学専攻【英語】問題

● 次の英文を読んで、日本語に訳しなさい。
なお解答は、別紙解答用紙に記入してください。

Generalist social work practice may involve almost any helping situation. A generalist practitioner may be called upon to help a homeless family, a physically abused child, a pregnant teenager, a sick older adult unable to care for him- or herself any longer, an alcoholic parent, a community that is trying to address its drug abuse problem, or a public assistance agency struggling to amend its policies to conform to new federal regulations. Therefore, generalist practitioners must be well prepared to address many kinds of difficult situations.

The social work profession has struggled with the concept of generalist practice for many years. In the past, new practitioners were educated in primarily one skill area（e.g., work with individuals, groups, or communities）or one area of practice（e.g., children and families, or policy and administration）. A generalist practitioner needs competency in a wide variety of areas instead of being limited to a single track.

For our purposes, we will define generalist practice as: the application of an e*clectic knowledge base, professional values*, and *a wide range of skills to target systems of any size*, for change within the context of four primary processes. First, generalist practice emphasizes client *empowerment*. Second, it involves working effectively within an organizational structure. Third, it requires the assumption *of a wide range of professional roles*. Fourth, generalist practice involves the application of *critical thinking skills* to the *planned change process*.

出典：Kirst-Ashman, k.and Hull Jr., G.（2009）*Understanding Generalist Practice 5th ed.,* Cengage Learning, p.7.

令和5年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅱ期）

## 社会福祉学専攻【英語】問題

● 解答は別紙解答用紙に記入してください。
福祉国家レジームに関する以下の英文を読んで、設問に答えなさい。

But, as we argued earlier, the crucial impact of political variables is not likely to emerge in models of aggregate welfare* outputs, but rather when we examine structural biases. **It** is to this examination that we now turn. First, we begin with a series of analyses of the three types of pension arrangements **that** reflect our welfare-state regime. The 'liberal regime' is measured by the share of private-sector pensions relative to total. For the 'conservative regime', we will analyze both degree of etatism**, measured as civil-service pension expenditures as a percentage of GDP, and degree of program corporatism, measured as the number of status-distinct, public pension plans. Finally, the 'social democratic regime' is identified in terms of legislated social security pension expenditure as a percentage of total.
（注）*aggregate welfare：総福祉 , **etatism：国家主義

出典：Gosta Esping-Andersen, *The Three Worlds of Welfare Capitalism,1990,p120*

【設問１】上記の英文を日本語に訳しなさい
【設問２】エスピン・アンデルセンによる福祉国家レジームの三類型を日本語で書きなさい
【設問３】太字下線の **it** が差す内容を英語で書きなさい
【設問４】太字下線の **that** の先行詞を英語で書きなさい

令和6年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅰ期）

## 社会福祉学専攻【英語】問題

● 下記の英文を読んで設問に解答しなさい。解答は、設問毎解答用紙に記述のこと

① While comparing differences and similarities of Japanese and Finnish elderly care service companies we first need to understand cultural characteristics in service practices

in ② both countries. Japan has high social hierarchy, emphasizes formal relationships between employers and employees and also authority. Finnish people, on the contrary, don't want other people to be very dependent on them and value equality with others. ( 中 略 ) In Japan, an elderly person is given the right to buy services from the supplier he or she chooses. In Finland, an aged person gets services from the municipality and if not satisfied, the only choice is to be without services or buy them from the private side, which is much more expensive. ③ From the viewpoint of our results an interesting finding is that equal characteristics can be found in client-driven, provider-dominated and balanced co-creation service types in both countries. ④ This indicates the conclusion that our findings could be valid also in other cultures and circumstances.

Hannu Pirnes et al "New Service Innovations in Elderly Care in Japan and Finland", Kari Laine et al, *Higher Education Institutions and Innovation in the Knowledge Society,* ARENE,2008

【設問 1】①の文章の主語、動詞を書きなさい（冠詞は含まずとも可）主語_____　動詞_____
【設問 2】②の指すものは具体的に何か_____
【設問 3】フィンランドの高齢者は、満足いくサービスを得られない場合はどうするか？
_____
【設問 4】③の文章の主語、動詞を書きなさい（冠詞は含まずとも可）主語_____　動詞_____
【設問 5】④の文章の主語、動詞を書きなさい（冠詞は含まずとも可）主語_____　動詞_____
【設問 6】全文を日本語 200 文字以内（句読点含む）で要約しなさい

## 令和6年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅱ期）
## 社会福祉学専攻【英語】問題

● **下記の英文を読んで設問に解答しなさい。**
**なお、解答は設問ごとに、別紙解答用紙に記入すること。**

① The major difference between the Japanese elderly care system and the corresponding Finnish system relates to customer orientation. In the Japanese system, an elderly person is perceived as a genuine client entitled to buy services from the best possible supplier. In Japan, Kaigo-Hogen has already opened a market for new business opportunities, although the supply, especially regarding home-care services and rehabilitation, is still comparatively limited. From the new service development viewpoint, the new definition of care is a challenging issue in ② both countries. Care no longer refers only to the support provided for daily activities, but is a method for how to realize the well-being of an individual elderly person. An elderly person is not classified merely as not-ill or not-sick, but she/he can be physically strong, intelligently well-educated, socially abundant in human relations, and mentally and spiritually safe. An improvement in the quality of life can possibly be achieved through new type of service innovations.

Hannu Pirnes et al "New Service Innovations in Elderly Care in Japan and Finland", Kari Laine et al, *Higher Education Institutions and Innovation in the Knowledge Society,* ARENE,2008

【設問 1】①の文章の動詞を書きなさい。
【設問 2】日本のシステムでは、高齢者はどう捉えられているか？
【設問 3】②の指すものは具体的に何か。
【設問 4】筆者の考えるケアでは、高齢者は何によってカテゴライズされるか。
【設問 5】筆者によれば、高齢者の QOL は何によって達成されるか。
【設問 6】全文を日本語 200 文字以内（句読点含む）で要約しなさい。

# 福祉心理学専攻

## 修士課程

# 福祉心理学専攻【英語】問題

● 次の英文を読んで、下記の【設問１】から【設問４】について答えなさい。また解答は、別紙解答用紙に記入してください。

**Adulthood, retirement and old age**

For most people, the time between the end of adolescence and retirement is filled with a succession of monumental events-such as going to university, getting a job, finding a partner, having children, getting divorced, coping with bereavement, moving house, getting fired and so on. Some psychologists have posited that adulthood itself consists of several discrete sub-stages. The late Daniel Levinson, for example, proposed that men live through several ①"seasons": the first from 17 to 22 involving the acquisition of independence; the second, a period of establishment, finding a career and perhaps starting a family; then a few stressful years of reassessment and reality-checking, characterized by a fear that dreams might not be achieved; and finally, from about 33 onwards, a period of settling down in both work and family life.

（中略）

As people get older and more forgetful it's natural for them to start worrying that something could be seriously wrong. However, it's worth recognizing that everyone makes mistakes whatever their age. In 2007, Maria Jonsdottir and her Icelandic colleagues set out to establish just how common such errors are. Nearly two hundred healthy participants aged between nineteen and sixty kept a diary of their lapses for a week, clocking up a total of 1217 mistakes. The average was for 6.4 lapses a week, with the most common kind being the sort that involves going upstairs only to forget what you've gone there for.

② It's not all bad news. While the ability to think on our feet-what psychologists call "fluid intelligence"-declines with age, general knowledge and wisdom（"crystallized intelligence"）usually continues improving until the age of about seventy. There's also ample evidence that keeping the body and mind exercised can help stave off the effects of ageing. A study of over eight hundred nuns, priests and monks, by neuropsychologist Robert Wilson of the Rush Alzheimer's Disease Centre, found that those who kept their minds busy-for example by reading the newspaper-were less likely to have developed Alzheimer's disease when re-examined four years later.

（中略）

③ Retirement, when and if we get there, has particular psychological importance. For many people their career lends life meaning, as well as providing friends and status. It can be unsettling for this to suddenly end with the prospect of old age lying in wait on the horizon. When Marion Kloep and Leo Hendry at the University of Glamorgan in Wales interviewed 45 older people about the experience of retiring, they found that people generally fell into three groups. There was a "high distress" group who'd experienced an accumulation of negative events, hadn't enjoyed work, but were nonetheless finding retirement challenging; a "work as lifestyle" group who'd been high achievers at work and were really suffering from the loss of status; and finally, a "life beyond work" group, which most participants fell into, made up of people living busy, active lives, meeting friends and getting stuck into hobbies.

According to a 2009 study, the key to a ④ successful retirement could be to leave one

foot in work while placing the other into retirement-taking on temporary, self-employed, or parttime duties in what the researchers called “bridge employment”. Yujie Zhan’s team at the University of Maryland looked at data from over twelve thousand participants collected between 1992 and 1998. Those who transferred to bridge employment enjoyed superior health compared with people who retired completely, even after taking baseline health into account. When bridge employment was in the same field as their main career, there were benefits for mental health too. Semi-retirement is probably beneficial because it avoids the shock of a sudden and complete role-transition; it keeps you active, but is less stressful than continuing with full-on duties.

出典：Christian Jarrett 2011 “Pat1-6 Your Development” The Rough Guide to Psychology (pp.126-130) Rough Guides.

【問１】下線部①について、Daniel Levinson が Adulthood に設定した”Seasons” の概要を説明せよ。

【問２】下線部②について、「悪い知らせではない」とする理由をまとめなさい。

【問３】下線部③について、Retirement を重要だとする理由をまとめなさい。

【問４】下線部④について、Successful Retirement の条件をまとめなさい。

## 令和5年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅰ期）
## 福祉心理学専攻【英語】問題

**● 次の英文を読んで、下記の【設問１】から【設問５】について答えなさい。**
**また解答は、別紙解答用紙に記入してください。**

Grusec and Redler (1980) directly compared the short-term and long-term effects of social reinforcers and internal attributions. Children were induced to share some tokens they had won in a game with poor children. The experimenter then either verbally praised the child (“It was good that you gave your tokens to those poor children…that was a nice and helpful thing to do”), or they made an internal attribution about the child’s behavior (“I guess you’re the kind of person who likes to help others whenever you can…You are a… helpful person”). The researchers recorded how helpful the two groups were immediately after the attribution or praise. They also assessed helpfulness 1 week and 3 week later. Initially there were no differences in how helpful the children were, but when they were observed on the two later occasions, the children who received the internal attributions were much more helpful than those who received renforcers.

In summary, it is clear that social learning and the socialization process play important roles in developmental change in helping, sharing, and prosocial behavior in general. However, to understand this process fully and to answer the question about how developmental change in prosocial behavior occur, we must also ask why these learning processes are so effective. The social learning theorists would argue that children learn to

self-regulate prosocial behaviors as the product of these learning experiences. Repeated learning experiences teach children the benefits of helping and altruistic actions. Having models, or instructions from their parents.

A second possibility, Grusec(1991a) and others (e.g., Moor & Eisenberg, 1984)give special attention to self-attributional processes. They propose that if children repeatedly act prosocially, they will come to believe that they are doing so because they are "prosocial people". They make internal, personal attributions about their behavior, and, as a consequence, they are more likely to help even when there are no external renforcers, models, or exhortations to be helpful.

出典：John F. Dovidio, Jane Allyn Piliavin, David A. Schroeder, Louis A. Penner(2006). The Development of Prosocial Behavior. Laurence Erlbaum Associates: NJ

【設問 1】
Grusec and Redler(1980)が行った研究の独立変数と従属変数を答えよ。

【設問 2】
Grusec and Redler(1980)では独立変数はどのように操作されているかを答えよ。

【設問 3】
Grusec and Redler(1980)ではどのように従属変数が測定されているかを答えよ。

【設問 4】
社会的学習がなぜ子どもの向社会的行動に影響を与えるのかを答えよ。

【設問 5】
Grusec and Redler(1980)では 1 週間後と 3 週間後にも向社会的行動が測定されているが、これらの時点における向社会的行動のレベルについて、予測される結果について書きなさい。



## 福祉心理学専攻【英語】問題

**● 次の英文を読んで、下記の【設問 1】から【設問 4】について答えなさい。**
**また解答は、別紙解答用紙に記入してください。**

①When the therapist approaches conflicts involving the ultimate concerns of death, freedom, and isolation, one of his or her first acts is "mind-setting". The same act is required of the therapist dealing with meaninglessness. Therapists must increase their sensitivity to the issue, listen differently, become aware of the importance of meaning in the lives of individuals. For many patients, the issue is not crucial: their lives seem filled with meaning. But for others the sense of meaninglessness is profound and pervasive. Therefore, therapists must be attuned to meaning, they must think about the overall focus and direction of the patient's life. Is the patient in any way reaching beyond himself or herself, beyond the

humdrum daily routine of staying alive?

（中略）

Earlier I described Frankl's dictum the "happiness cannot be pursued, it can only ensue". The more we deliberately search for self-satisfaction, the more will it elude us. The more we fulfill some self-transcendent meaning, the more happiness will ensue.For patients in therapy it is necessary that therapists help them take their gaze off themselves. Frankl describes a specific technique －②dereflection － which in principle involves diverting patients' gaze away from themselves, from their dysphoria, from the source of their neuroses and toward the intact parts of their personalities and the meanings that are available for them in the world.

（中略）

Frankl suggests that it is the therapist's task to comprehend some coherent pattern, some meaning gestalt, in what would appear to be the random and tragic events of life. Often much ingenuity is required of the therapist, as one of Frankl's cases illustrates. He was consulted by an elderly, depressed general practitioner who could not overcome the loss of his wife two years previously. I quote Frankl : Now how could I help him? What should I tell him? Well, I refrained from telling him anything, but instead confronted him with the question, "What would have happened, ③ Doctor, if you had died first, and your wife would have had to survive you?" "Oh," he said, "for her this would have been terrible; how she would have suffered!" Whereupon I replied," You see, Doctor, such a suffering has been spared her, and it is you who have spared her this suffering; but now, you have to pay for it by surviving and mourning her." He said no word but shook my hand and calmly left my office.

出典：Yalom,I.D.1980 Existential Psychotherapy. Basic Books

【設問１】下線部①を日本語訳しなさい。

【設問２】下線部②の derefiction とはどのような方法であるか簡潔に説明しなさい。

【設問３】下線部③と同じ意味を持つ語を文中より抜き出しなさい。

【設問４】筆者が引用した Frankl の事例の概要を簡潔にまとめ，そのうえで本文の記述を参考に事例の考察をしなさい。

## 令和4年度　東北福祉大学大学院修士課程（一般選抜）入学試験（Ⅱ期）

## 福祉心理学専攻【英語】問題

**● 次の英文を読んで【設問１】から【設問５】に答えなさい。なお、解答は設問ごとに、別紙解答用紙に記入すること。**

To test these hypotheses, Schevhter, Durik, Miyamoto, and Harackiewicz（2011）asked participants to learn a new math technique（i.e., how to solve two-digit multiplication without using paper and pencil）through reading an instruction notebook and listening

to an audio tape that guided them through the notebook. The manipulation of proximal and distal utility value was embedded in the instructional notebook. Participants in the distal utility value condition were told about the usefulness of the technique in the long-term future（e.g., career endeavor, graduate school), whereas participants in the proximal utility value condition were told about the usefulness of the technique in various everyday life situations（e.g., calculating tips, managing personal finances). After learning the math technique, participants reported the amount of effort they exert on the problem sets and how interested they were in the math techniques on seven-point rating scales from 1 to 7.

Consistent with the hypotheses, East Asian participants found the technique to be more interesting and reported working harder after the distal utility was highlighted than they did after the proximal utility was highlighted, whereas European American participants showed the opposite pattern. These finding not only highlight differences in attention to proximal and distal events but also provide their potential motivational consequences. They suggest that East Asians gain the most motivational benefit from learning distal connections between the task and long-term goals, whereas Westerners gain the most motivational benefit from learning about proximal connections between the task and short-term goals.

Culture differences in attention to proximal and distal temporal contexts have also shown in attention to proximal and distal *past* events（Ji, Guo, Zhang, & Messervey, 2009). When judging the relevance of factors that happened in the past and in the present to solving a case of theft, Chinese participants rated the past information to be more relevant to solving the case of theft than European Canadians did, whereas both groups of participants rated the present information to be equally relevant. As a whole, these findings suggest that East Asians are more likely than Westerners to attend to both past and future distal events, whereas Westerners are more likely than East Asian to focus on proximal events, and such cultural differences have motivational consequences（Shechter et al., 2011).

出典：Miyamoto, Y.(2013). Culture and Analytic Versus Holistic Cognition: Toward Multilevel Analyses of Cultural Influences. *Advances in Experimental Social Psychology*, 52, 131-187.)

【設問 1 】
第 1 段落の下線部について、Schevhter らの実験ではどのような仮説を検討しようとしているのか、書きなさい。

【設問 2 】
Schevhter らが行った実験における独立変数と、その操作の仕方を書きなさい。

【設問 3 】
従属変数はどのようなもので、どう測定されたかを答えなさい。

【設問 4 】
どのような結果が示されたのか、その結果が何を示唆しているのかを答えなさい。

【設問 5 】
第 3 段落の下線部について、どのようなことか具体的に書きなさい。

# 福祉心理学専攻【英語】問題

**● 次の英文を読んで【設問１】から【設問４】に答えなさい。**
**なお、解答は設問ごとに、別紙解答用紙に記入すること。**

Resistance to personality change—and specifically to psychotherapy, even by those who strongly aver that they want to help themselves change and who spend considerable time, money, and effort in pursuing various forms of therapy—has been observed for many years.

（中略）

Early in the 20th century, the theory of resistance (particularly compliance) in psychotherapy came into its own with the elucidation of the Freudian concepts of transference and countertransference (Freud, 1912/1965b). Freud almost became obsessed with problems of resistance and expanded his earlier concepts to include five main varieties: resistance of repression, of transference, and of secondary gain (all stemming from the ego); resistance of the repetition compulsion (arising from the id); and resistance of guilt and selfpunishment ( originating in the superego) (Freud, 1926/1956d). Following Freud, psychoanalysts (and many other kinds of therapists) have also often been obsessed with problems of resistance.

As several recent writers have aptly noted, views on what resistance is and how it can best be resolved largely depend on one's definition of this fascinating phenomenon (Wachtel, 1982; Weiner, 1982). Personally, I like Turkat and Meyer's (1982, p.158) definition: "Resistance is client behavior that the therapist labels antitherapeutic." This is both simple and comprehensive; and, as its authors suggest, it can also be operationalized to each client's individual experience and be seen as that specific form of behavior that is observed when this particular client acts non-therapeutically according to his or her therapist in these particular situations.

However accurate such a definition of resistance may be, it is too general to be of much clinical use, and it hardly explains the main "cause" of resistance, nor what we can preferably do to help overcome them.

出　典：Ellis, A.(1985) Overcoming Resistance：Rational-Emotive Therapy with Difficult Clients. Springer Publishing Company New York. pp. 5-6.

【設問１】抵抗とはどのような人々にでさえ起こるものであると筆者は述べていますか？

【設問２】文章をよく読んで以下の空欄（①～⑤）に入る最もふさわしい言葉を記入しなさい。

フロイトは初期の抵抗概念を拡張し５種類の抵抗のバリエーションを提唱した。
１～３つ目は自我に由来する抵抗である。
ここには［　　①　　抵抗］,［　　②　　抵抗］,［　　③　　抵抗］の３種類が含まれる。
４つ目はイド（エス）から生じる抵抗である。これは［　　④　　］の抵抗である。
５つ目は［　　⑤　　］に由来する抵抗である。これは罪悪感と自罰の抵抗である。

【設問３】筆者が好んで用いるという抵抗の定義を文中から抽出し和訳しなさい。

【設問４】下線部を和訳しなさい。

# 福祉心理学専攻【英語】問題

● 次の英文を読んで【設問１】から【設問４】に答えなさい。
なお、解答は設問ごとに、別紙解答用紙に記入すること。

As adults, we behave and think in ways that reflect our understanding that other people have minds- they think, they have expectations and beliefs, they have their own assumptions and so on. Much of our behavior toward other people is based on our understanding of what they are thinking. For example, we have a date to meet a friend for coffee at 2 p.m. but realize that the meeting we are in is not going to be finished until 2:30 p.m. Knowing the friend expects us to be at the coffee house at 2 p.m., we take a break from the meeting to call our friend and tell her we are going to be late. We also occasionally reflect on our own thinking process by, for example, evaluating what we think about a situation or wondering how we could have been mistaken in a belief. This thinking about thinking is referred to as ① **metacognition.**

Humans have some capacity for understanding that other people have minds from a very early age. By 6 to 9 months, infants are generally capable of sharing experiences about objects or events with others by following the visual gaze of those other people (Bakeman & Adamson, 1984; Scaife & Bruner, 1975). For example, if a caregiver says, 'see the toy over there' while looking or pointing at a toy across the room, an infant will follow the caregiver's gaze or point to the toy. This is referred to as joint attention (Bruner, 1975), and this capacity is critical to the development of social communication and language. The development of joint attention seems to be the product of both the development of specific areas of the brain and repeated exposure to events such as the one just described in which other people share with the infant a reference to an object, event or person (Mundy & Jarrold, 2010).

From this foundation of the development of joint attention, children develop knowledge about basic mental states, such as desires, percepts, beliefs, knowledge, thoughts, intentions, and feelings. This knowledge is often referred to as ② **theory of mind.** The sophistication of children's theory of mind develops gradually over the first years of life, however. The following study is typical in research on theory of mind and illustrates the basic developmental finding (Flavell, 1999).

**③ An experimenter shows a five-year-old child a candy box with pictures of candy on it and asks her what she thinks is in it. 'Candy,' she replies. Then the child gets to look inside and discovers to her surprise that it actually contains crayons, not candy. The experimenter then asks her what another child who had not yet seen inside the box would think it contained. 'Candy,' the child answers, amused at the deception. The experimenter then tries the same procedure with a 3 year old. The response to the initial question is the expected 'Candy,' but the response to the second is surprising - a confident 'Crayons.' Even more surprising is that in response to further questioning, the 3 year old claims that she had initially thought that there were crayons in the box and had even said that there were.**

**④ The basic interpretation of these results of the *false belief task* is that pre-schoolers do not yet fully comprehend that other people have minds and thoughts different from their own, and**

**therefore do not understand that people can have beliefs different from their own or different from reality.**

出典 Atkinson & Hilgard's Introduction to psychology 16th edition: chapter 3 psychological development, pp.82- pp.83.

【設問１】下線部①の概要を説明せよ。

【設問２】下線部②の概要を説明せよ

【設問３】下線部③について、課題の概要を説明し、３歳児と５歳児の課題に対する反応違いを答えよ。

【設問４】下線部④を和訳せよ。

# 社会福祉学専攻

## 博士課程

# 社会福祉学専攻【英語】共通問題

● **次の英文を読んで、下記の【設問 1】から【設問 4】について答えなさい。**
**解答は、別紙解答用紙に記入してください。**

To care for another person, in the most significant sense, is to help him grow and actualize himself. Consider, for example, a father caring for his child. He respects the child as existing in his own right and as striving to grow. He feels needed by the child and helps him grow by responding to his need to grow. ①Caring is the antithesis of simply using the other person to satisfy one's own needs. ②The meaning of caring I want to suggest is not to be confused with such meanings as wishing well, liking, comforting and maintaining, or simply having an interest in what happens to another. Also, it is not an isolated feeling or a momentary relationship, nor is it simply a matter of wanting to care for some person. Caring, as helping another grow and actualize himself, is a process, a way of relating to someone that involves development, in the same way that friendship can only emerge in time through mutual trust and deepening and qualitative transformation of the relationship.

③Whatever the important differences are among a parent caring for his child, a teacher caring for his pupil, a psychotherapist caring for his patient, or husband caring for his wife, I would like to show that they all exhibit a common pattern. But besides caring for people, in this sense, we may care for many other things as well. We may care, for instance, for our "brain child"（a philosophical or an artistic idea）, an ideal, or a community. And here too, whatever the important differences are between caring for a person and caring for an idea, I would like to show that there is a common pattern of helping the other grow. It is this general pattern of caring that I will describe and explore.

出典：Mayeroff, Milton (1972) *On caring, HarperPerennial*, p.1-2.

【設問 1】
下線部①の正反対（antithesis）のものとして示されていることは何か、日本語で答えなさい。

【設問 2】
下線部②を和訳しなさい。

【設問 3】
下線部③を和訳しなさい。

【設問 4】
著者が考えるケアとは何か、日本語で簡潔に述べなさい。

# 社会福祉学専攻【英語】共通問題

● 下記の問題【Ⅰ】・【Ⅱ】について、答えなさい。

【Ⅰ】次の英文を読んで（設問1）について答えなさい。

①This study explored professional views about the needs of young carers of adults with mental health problems. Sixty-five participants were interviewed and included professionals from the health, social care, and voluntary sectors. Respondents were asked to comment on their understanding of the needs of young carers and appropriate methods or interventions to address these needs. Findings include: young carers' perceived isolation, restricted opportunities, and stigma; fears involving child protection and family separation; and examples of good professional practice upon which to build.

出典：Gray, B., Robinson, C., and Seddon, D.(2008). Invisible Children: Young Carers of Parents with Mental Health Problems - The Perspectives of Professionals. *Child and Adolescent Mental Health*, 13(4), 169-172.

＜設問1＞下線部①を和訳しなさい。

【Ⅱ】次の英文を読んで、（設問2）から（設問4）について答えなさい。
なお、固有名詞を訳す必要はありません。

②Every day, most social workers are confronted with the necessity to make ethical decisions. Sometimes they have an opportunity to think about the choices, perhaps to talk things over with a colleague or to consult with an expert. More often, however, social workers − even student social workers − are alone when they must make difficult ethical decisions; they cannot wait because of the immediacy of the problem that faces them. At best, they have a few hours or a few days to consider what should be done.

1. 1 The Guevara Family Struggle: Report or Not?

③The Guevara family is working very hard to get by economically. Mr. and Mrs. Guevara both work full-time. Their four children − three of whom are in elementary school − return home in the early afternoon. The oldest child, Rosa, is 16 years old and expected to feed, supervise, and care for the other children, which she has done successfully. However, a neighbor reported the Guevaras to Child Protective Services, accusing them of neglect. When Morgana Elam, the social worker assigned, met with her, Mrs. Guevara told her that this is the way it is done in their culture. Also, she and her husband want to make a better life for their children. They have explored every possible alternative, and there is none. If one of them has to cut back on employment, a paycheck will be lost without any assurance that other work will be found. After checking, Ms. Elam found she also could not suggest an alternative. The children all appear healthy and happy.

④What ethical issues does this situation pose? Where will the social worker find help with the ethical aspects of this practice problem? How will the social worker decide what course of action to follow?

出典：Loewenberg, F., Dolgoff, R., and Harrington, D.,(2000). *Ethical Decisions for Social Work Practice 6th Edition*, F.E. Peacock, p3-4.

＜設問２＞下線部②を和訳しなさい。

＜設問３＞下線部③について、事例の概要を述べなさい。

＜設問４＞下線部④の質問について、あなたの考えを述べなさい。

## 令和6年度　東北福祉大学大学院博士課程（一般選抜・社会人選抜）入学試験
## 社会福祉学専攻【英語】共通問題

**● 下記の問題【Ⅰ】・【Ⅱ】について、答えなさい。**
**解答は、別紙解答用紙に記入してください。**

【Ⅰ】次の英文を読んで【設問1】について答えなさい。

① Since the 1990s, evidence-based practice has become part of social work, grounded in the notion that social work should be a research-based profession. However, recent studies show that social workers struggle with bridging research and practice. This study analysed Norwegian social workers' use of knowledge in their daily practice, drawing on data from a survey consisting of 2060 social workers in different practice fields as well as qualitative interviews with 25 social workers from social services and child welfare services. Analyses of the quantitative data revealed that clients, work experience, and colleagues were the three most common sources of knowledge among the social workers. The use of knowledge could be divided into two subgroups: (a) theory-oriented and (b) practice-oriented. The qualitative interviews revealed that social workers valued work experience, colleagues, supervisors, and clients as their main sources of knowledge. Lack of time was identified as the main barrier for engaging in research. The findings in this study are contextualised with theories on knowledge production and translation in social work, arguing that field instructors, supervisors, and social work education play an essential role both in facilitating evidence-based practice and, more broadly, in bridging the gap between research and practice.

＜出典＞ Fine, J., Tor-Johan, E. & Malmberg-Heimonen, I. (2020). Social workers use of knowledge in an evidence-based framework: a mixed methods study. European journal of social work, 25(3), 1–14.

【設問１】下線部①の概要を日本語で述べなさい。

【Ⅱ】次の英文を読んで、【設問２】から【設問４】について答えなさい。
なお、固有名詞を訳す必要はありません。

② The strengths perspective is distinct from a medical model approach to helping that has significantly influenced social work practice, especially within the mental health field. This approach views clients from an illness and pathological standpoint. The social worker attempts to diagnose the clients' problem, develops a treatment plan, and evaluates the outcome (Shulman, 2006). This traditional stance of helping assumes that clients have problems that they are unable or unwilling to resolve and therefore, they need professional services. Many times, this view assumes that the existence of the problem and the need

for the client to seek professional help indicate deficits or flaws in clients (Weick et al., 1989). In addition, the emphasis on the problems in the client creates a wave of pessimistic expectations about the client's capabilities and environment. Clients may then believe that, because they have these problems, they are somehow deficient or abnormal. This ignores the idea that clients have tremendous assets and potential that may not be recognized (Saleebey, 2013).

③ Strengths perspective, in contrast to the medical model, provides a different way of viewing clients and the helping process in social work practice. It de-emphasizes this problem-focused lens in social work practice and provides an alternative framework for working with clients. Instead of focusing mainly on the problems of the clients, the strengths perspective is goal oriented and focuses primarily on the strengths of the clients, looking for talents, knowledge, capacities, and resources. Practicing from this perspective means the social worker is always exploring and utilizing clients' strengths and resources, both within the person and their environment, in helping them with their problems or goals (Saleebey, 2013; Sullivan, 1992).

＜出典＞ Kim J. & Bolton, K., (2019). Strength Perspective. Encyclopedia of Social Work. https://doi.org/10.1093/acrefore/9780199975839.013.382

【設問 2】下線部②を和訳しなさい。

【設問 3】下線部③を和訳しなさい。

【設問 4】ソーシャルワーカーが医学モデルの見方でクライエントの支援を行うことの問題点について、上記の英文の情報を基に述べなさい。

# 入 学 志 願 票

〔社会福祉学専攻〕
（一　般）

# 2025 年度

## 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科入学志願票

受験番号※

年　月　日

**東北福祉大学長　殿**

氏名（ふりがな）　印　（男・女）

生年月日（西暦）　年　月　日生（満　歳）

貴学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程入学志願につき所定の書類を添え出願いたします。

写真
3 cm × 4 cm
上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもので、写真裏面に出身大学名および氏名を記入のうえ全面糊付すること。

年　月　日撮影

| | | |
|---|---|---|
| 入学資格 | 国立・公立・私立 | 大学　学部　学科専攻<br>年　月　日　卒業・卒業見込 |
| 現住所 | （〒　） | TEL　（　）<br>携帯　（　）<br>E-mail |
| 帰省先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 勤務先名 | （職名） | 部　課 |
| 勤務先住所 | （〒　） | TEL　（　） |
| 合否通知書等受信先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 本人の履歴 学歴 | 年　月 | 高等学校卒業 |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学　入学 |
| | 年　月　第　学年編入 | （編入学の場合記載してください） |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学　卒業・卒業見込 |
| | 年　月 | 高等学校卒業程度認定試験 大学入学資格検定試験　合格 |
| 本人の履歴 職歴 | 年　月 | |
| | 年　月 | |
| | 年　月 | |

注1．合否通知書等受信先は必ず記入のこと（受信先は帰省先が望ましい）。
注2．※は記入しないこと。
※記入された個人情報については、東北福祉大学大学院入試業務のために利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業論文題名 | | | |
| 卒業論文概要<br>(卒業見込者も必ず記入のこと) | | | |
| アルバイトの必要性 | 有　　無 | 修了後の進路・目標 | |
| 外国語(英語)の免除 | 有　　無<br>(詳細については、出願書類提出注意事項一覧を確認してください) | | |
| 免許・資格 | | | |
| 長期履修制度の利用 | す る　・　しない<br>(詳細については、P. 39 を確認してください) | | |
| 備　考 | | | |

注1．すでに大学を卒業している志願者は学部の卒業論文（コピー可）を提出のこと（作成者のみ）。
注2．大学卒業見込の志願者は卒業論文の概要を所定の欄に記入のこと（作成者のみ）。

振込受付証明書

貼付

〔社会福祉学専攻〕
（社 会 人）

# 2025 年度

## 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科入学志願票

受験番号※

年　月　日

**東北福祉大学長　殿**

氏名（ふりがな）　印　（男・女）

生年月日（西暦）　年　月　日生（満　歳）

貴学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程入学志願につき所定の書類を添え出願いたします。

写真
3 cm × 4 cm
上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもので、写真裏面に出身大学名および氏名を記入のうえ全面糊付すること。

年　月　日撮影

| | | |
|---|---|---|
| 入学資格 | | 国立・公立・私立<br>大学　学部　学科 専攻<br>年　月　日　卒業・卒業見込 |
| 現住所 | | （〒　）<br>TEL　（　）<br>携帯　（　）<br>E-mail |
| 帰省先 | | （〒　）<br>TEL　（　） |
| 勤務先名 | | 部　課<br>（職名） |
| 勤務先住所 | | （〒　）<br>TEL　（　） |
| 合否通知書等受信先 | | （〒　）<br>TEL　（　） |
| 本人の履歴 | 学歴 | 年　月　高等学校卒業 |
| | | 年　月　□専門学校 □短大 □大学　入学 |
| | | 年　月　第　学年編入（編入学の場合記載してください） |
| | | 年　月　□専門学校 □短大 □大学　卒業・卒業見込 |
| | | 年　月　高等学校卒業程度認定試験 大学入学資格検定試験　合格 |
| | 職歴 | 年　月 |
| | | 年　月 |
| | | 年　月 |

注1．合否通知書等受信先は必ず記入のこと。
注2．※は記入しないこと。
※記入された個人情報については、東北福祉大学大学院入試業務のために利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業論文題名 | | | |
| 卒業論文概要<br>(卒業見込者も必ず記入のこと) | | | |
| アルバイトの必要性 | 有　　無 | 修了後の進路・目標 | |
| 免許・資格 | | | |
| 長期履修制度の利用 | す る　・　しない<br>(詳細については、P. 39 を確認してください) | | |
| 備　考 | | | |

注1．すでに大学を卒業している志願者は学部の卒業論文（コピー可）を提出のこと（作成者のみ）。
注2．大学卒業見込の志願者は卒業論文の概要を所定の欄に記入のこと（作成者のみ）。

振込受付証明書

貼付

〔社会福祉学専攻〕
（特別選抜（学内））

# 2025 年度

## 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科入学志願票

受験番号※

年　月　日

**東北福祉大学長　殿**

氏名（ふりがな）　印　（男・女）

生年月日（西暦）　年　月　日生（満　歳）

貴学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程入学志願につき所定の書類を添え出願いたします。

写真
3 cm × 4 cm
上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもので、写真裏面に出身大学名および氏名を記入のうえ全面糊付すること。

年　月　日撮影

| | | |
|---|---|---|
| 入学資格 | 東北福祉大学　学部　学科専攻<br>年　月　日　卒業見込 | |
| 現住所 | （〒　） | TEL　（　）<br>携帯　（　）<br>E-mail |
| 帰省先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 勤務先名 | 部　課<br>（職名） | |
| 勤務先住所 | （〒　） | TEL　（　） |
| 合否通知書等受信先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 本人の履歴 学歴 | 年　月 | 高等学校卒業 |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学　入学 |
| | 年　月　第　学年編入 | （編入学の場合記載してください） |
| | 年　月 | 卒業見込 |
| | 年　月 | 高等学校卒業程度認定試験 大学入学資格検定試験　合格 |
| 本人の履歴 職歴 | 年　月 | |
| | 年　月 | |
| | 年　月 | |

注1．合否通知書等受信先は必ず記入のこと（受信先は帰省先が望ましい）。
注2．※は記入しないこと。
※記入された個人情報については、東北福祉大学大学院入試業務のために利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業論文題名 | | | |
| 卒業論文概要 | | | |
| アルバイトの必要性 | 有　　無 | 修了後の進路・目標 | |
| 免許・資格 | | | |
| 長期履修制度の利用 | す る　・　しない<br>（詳細については、P. 39 を確認してください） | | |
| 備　考 | | | |

注 1．卒業見込の志願者は卒業論文の概要を所定の欄に記入のこと（作成者のみ）。

振込受付証明書

貼付

〔福祉心理学専攻〕
〈福祉心理学分野〉
（一　　般）

# 2025 年度

## 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科入学志願票

受験番号※

年　　月　　日

**東北福祉大学長　殿**

氏名（ふりがな）　　印　（男・女）

生年月日（西暦）　　年　　月　　日生（満　　歳）

写真
3 cm × 4 cm
上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもので、写真裏面に出身大学名および氏名を記入のうえ全面糊付すること。

年　　月　　日撮影

貴学大学院総合福祉学研究科福祉心理学専攻修士課程（福祉心理学分野）入学志願につき所定の書類を添え出願いたします。

| | | |
|---|---|---|
| 入学資格 | 国立・公立・私立 | 大学　学部　学科専攻<br>年　月　日　卒業・卒業見込 |
| 現住所 | （〒　　） | TEL　（　　）<br>携帯　（　　）<br>E-mail |
| 帰省先 | （〒　　） | TEL　（　　） |
| 勤務先名 | （職名） | 部　課 |
| 勤務先住所 | （〒　　） | TEL　（　　） |
| 合否通知書等受信先 | （〒　　） | TEL　（　　） |
| 本人の履歴 学歴 | 年　月 | 高等学校卒業 |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学　入学 |
| | 年　月　第　学年編入 | （編入学の場合記載してください） |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学　卒業・卒業見込 |
| | 年　月 | 高等学校卒業程度認定試験 大学入学資格検定試験　合格 |
| 本人の履歴 職歴 | 年　月 | |
| | 年　月 | |
| | 年　月 | |

注1．合否通知書等受信先は必ず記入のこと（受信先は帰省先が望ましい）。
注2．※は記入しないこと。
※記入された個人情報については、東北福祉大学大学院入試業務のために利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業論文題名 | | | |
| 卒業論文概要<br>(卒業見込者も必ず記入のこと) | | | |
| アルバイトの必要性 | 有　　無 | 修了後の進路・目標 | |
| 外国語(英語)の免除 | 有　　無<br>(詳細については、出願書類提出注意事項一覧を確認してください) | | |
| 免許・資格 | | | |
| 長期履修制度の利用 | す る　・　しない<br>(詳細については、P. 39 を確認してください) | | |
| 備　考 | | | |

注 1．すでに大学を卒業している志願者は学部の卒業論文（コピー可）を提出のこと（作成者のみ）。
注 2．大学卒業見込の志願者は卒業論文の概要を所定の欄に記入のこと（作成者のみ）。

振込受付証明書

貼付

〔福祉心理学専攻〕
〈臨床心理学分野〉
（一　　般）

# 2025 年度

## 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科入学志願票

受験番号※

年　　月　　日

**東北福祉大学長　殿**

氏名（ふりがな）　　印　（男・女）

生年月日（西暦）　　年　　月　　日生（満　　歳）

写真
3 cm × 4 cm
上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもので、写真裏面に出身大学名および氏名を記入のうえ全面糊付すること。

貴学大学院総合福祉学研究科福祉心理学専攻修士課程（臨床心理学分野）入学志願につき所定の書類を添え出願いたします。

年　月　日撮影

| | | |
|---|---|---|
| 入学資格 | 国立・公立・私立 | 大学　学部　学科専攻<br>年　月　日　卒業・卒業見込 |
| 現住所 | （〒　　） | TEL　（　　）<br>携帯　（　　）<br>E-mail |
| 帰省先 | （〒　　） | TEL　（　　） |
| 勤務先名 | （職名） | 部　課 |
| 勤務先住所 | （〒　　） | TEL　（　　） |
| 合否通知書等受信先 | （〒　　） | TEL　（　　） |
| 本人の履歴 学歴 | 年　月 | 高等学校卒業 |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学 入学 |
| | 年　月　第　学年編入 | （編入学の場合記載してください） |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学 卒業・卒業見込 |
| | 年　月 | 高等学校卒業程度認定試験 大学入学資格検定試験 合格 |
| 本人の履歴 職歴 | 年　月 | |
| | 年　月 | |
| | 年　月 | |

注1．合否通知書等受信先は必ず記入のこと（受信先は帰省先が望ましい）。
注2．※は記入しないこと。
※記入された個人情報については、東北福祉大学大学院入試業務のために利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業論文題名 | | | |
| 卒業論文概要<br>(卒業見込者も必ず記入のこと) | | | |
| アルバイトの必要性 | 有　　無 | 修了後の進路・目標 | |
| 外国語(英語)の免除 | 有　　無<br>(詳細については、出願書類提出注意事項一覧を確認してください) | | |
| 免許・資格 | | | |
| 長期履修制度の利用 | す る　・　しない<br>(詳細については、P. 39 を確認してください) | | |
| 備　考 | | | |

注 1．すでに大学を卒業している志願者は学部の卒業論文（コピー可）を提出のこと（作成者のみ）。
注 2．大学卒業見込の志願者は卒業論文の概要を所定の欄に記入のこと（作成者のみ）。

振込受付証明書

貼付

〔福祉心理学専攻〕
〈福祉心理学分野〉
（社 会 人）

# 2025 年度

## 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科入学志願票

受験番号※

年　月　日

**東北福祉大学長　殿**

氏名（ふりがな）　印　（男・女）

生年月日（西暦）　年　月　日生（満　歳）

貴学大学院総合福祉学研究科福祉心理学専攻修士課程（福祉心理学分野）入学志願につき所定の書類を添え出願いたします。

写真
3 cm × 4 cm
上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもので、写真裏面に出身大学名および氏名を記入のうえ全面糊付すること。

年　月　日撮影

| | | |
|---|---|---|
| 入学資格 | 国立・公立・私立 大学 学部 学科 専攻 年 月 日 卒業・卒業見込 | |
| 現住所 | （〒　） | TEL （　）<br>携帯 （　）<br>E-mail |
| 帰省先 | （〒　） | TEL （　） |
| 勤務先名 | 部 課<br>（職名） | |
| 勤務先住所 | （〒　） | TEL （　） |
| 合否通知書等受信先 | （〒　） | TEL （　） |
| 本人の履歴 学歴 | 年 月 | 高等学校卒業 |
| | 年 月 | □専門学校 □短大 □大学 入学 |
| | 年 月 第 学年編入 | （編入学の場合記載してください） |
| | 年 月 | □専門学校 □短大 □大学 卒業・卒業見込 |
| | 年 月 | 高等学校卒業程度認定試験 大学入学資格検定試験 合格 |
| 本人の履歴 職歴 | 年 月 | |
| | 年 月 | |
| | 年 月 | |

注1．合否通知書等受信先は必ず記入のこと。
注2．※は記入しないこと。
※記入された個人情報については、東北福祉大学大学院入試業務のために利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業論文題名 | | | |
| 卒業論文概要<br>(卒業見込者も必ず記入のこと) | | | |
| アルバイトの必要性 | 有　　無 | 修了後の進路・目標 | |
| 免許・資格 | | | |
| 長期履修制度の利用 | す る　・　しない<br>(詳細については、P. 39 を確認してください) | | |
| 備　考 | | | |

注 1．すでに大学を卒業している志願者は学部の卒業論文（コピー可）を提出のこと（作成者のみ）。
注 2．大学卒業見込の志願者は卒業論文の概要を所定の欄に記入のこと（作成者のみ）。

振込受付証明書

貼付

〔福祉心理学専攻〕
〈福祉心理学分野〉
（特別選抜（学内））

# 2025 年度

# 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科入学志願票

受験番号※

年　月　日

**東北福祉大学長　殿**

氏名（ふりがな）　印　（男・女）

生年月日（西暦）　年　月　日生（満　歳）

写真
3 cm × 4 cm
上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもので、写真裏面に出身大学名および氏名を記入のうえ全面糊付すること。

年　月　日撮影

貴学大学院総合福祉学研究科福祉心理学専攻修士課程（福祉心理学分野）入学志願につき所定の書類を添え出願いたします。

| | | |
|---|---|---|
| 入学資格 | 東北福祉大学　学部　学科専攻<br>年　月　日　卒業見込 | |
| 現住所 | （〒　） | TEL　（　）<br>携帯　（　）<br>E-mail |
| 帰省先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 勤務先名 | 部　課<br>（職名） | |
| 勤務先住所 | （〒　） | TEL　（　） |
| 合否通知書等受信先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 本人の履歴 学歴 | 年　月 | 高等学校卒業 |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学　入学 |
| | 年　月　第　学年編入 | （編入学の場合記載してください） |
| | 年　月 | 卒業見込 |
| | 年　月 | 高等学校卒業程度認定試験 大学入学資格検定試験　合格 |
| 本人の履歴 職歴 | 年　月 | |
| | 年　月 | |
| | 年　月 | |

注1．合否通知書等受信先は必ず記入のこと（受信先は帰省先が望ましい）。
注2．※は記入しないこと。
※記入された個人情報については、東北福祉大学大学院入試業務のために利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業論文題名 | | | |
| 卒業論文概要 | | | |
| アルバイトの必要性 | 有　　無 | 修了後の進路・目標 | |
| 免許・資格 | | | |
| 長期履修制度の利用 | す る　・　しない<br>（詳細については、P. 39 を確認してください） | | |
| 備　考 | | | |

注 1．大学卒業見込の志願者は卒業論文の概要を所定の欄に記入のこと（作成者のみ）。

振込受付証明書

貼付

〔福祉心理学専攻〕
〈臨床心理学分野〉
（特別選抜（学内））

# 2025 年度

# 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科入学志願票

受験番号※

年　月　日

**東北福祉大学長　殿**

氏名（ふりがな）　印　（男・女）

生年月日（西暦）　年　月　日生（満　歳）

写真
3 cm × 4 cm
上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもので、写真裏面に出身大学名および氏名を記入のうえ全面糊付すること。

年　月　日撮影

貴学大学院総合福祉学研究科福祉心理学専攻修士課程（臨床心理学分野）入学志願につき所定の書類を添え出願いたします。

| | | |
|---|---|---|
| 入学資格 | 東北福祉大学　学部　学科専攻<br>年　月　日　卒業見込 | |
| 現住所 | （〒　） | TEL　（　）<br>携帯　（　）<br>E-mail |
| 帰省先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 勤務先名 | 部　課<br>（職名） | |
| 勤務先住所 | （〒　） | TEL　（　） |
| 合否通知書等受信先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 本人の履歴 学歴 | 年　月 | 高等学校卒業 |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学　入学 |
| | 年　月　第　学年編入 | （編入学の場合記載してください） |
| | 年　月 | 卒業見込 |
| | 年　月 | 高等学校卒業程度認定試験 大学入学資格検定試験　合格 |
| 本人の履歴 職歴 | 年　月 | |
| | 年　月 | |
| | 年　月 | |

注1．合否通知書等受信先は必ず記入のこと（受信先は帰省先が望ましい）。
注2．※は記入しないこと。
※記入された個人情報については、東北福祉大学大学院入試業務のために利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 卒業論文題名 | | | |
| 卒業論文概要 | | | |
| アルバイトの必要性 | 有　　無 | 修了後の進路・目標 | |
| 免許・資格 | | | |
| 長期履修制度の利用 | す る　・　しない<br>（詳細については、P. 39 を確認してください） | | |
| 備　考 | | | |

注 1．大学卒業見込の志願者は卒業論文の概要を所定の欄に記入のこと（作成者のみ）。

振込受付証明書

貼付

〔博士課程〕
（一　般）

# 2025 年度

## 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科入学志願票

受験番号※

年　月　日

**東北福祉大学長　殿**

氏名（ふりがな）　印　（男・女）

生年月日（西暦）　年　月　日生（満　歳）

貴学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻博士課程入学志願につき所定の書類を添え出願いたします。

写真
3 cm × 4 cm
上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもので、写真裏面に出身大学名および氏名を記入のうえ全面糊付すること。

年　月　日撮影

| | | |
|---|---|---|
| 入学資格 | 国立・公立・私立　大学院　研究科　専攻　年　月　日　修了・修了見込 | |
| 現住所 | （〒　） | TEL　（　）<br>携帯　（　）<br>E-mail |
| 帰省先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 勤務先名 | 部　課<br>（職名） | |
| 勤務先住所 | （〒　） | TEL　（　） |
| 合否通知書等受信先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 本人の履歴 学歴 | 年　月 | 高等学校卒業 |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学 入学 |
| | 年　月　第　学年編入 | （編入学の場合記載してください） |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学 卒業 |
| | 年　月 | 大学院入学 |
| | 年　月 | 大学院修了・修了見込 |
| | 年　月 | 高等学校卒業程度認定試験 大学入学資格検定試験 合格 |
| 本人の履歴 職歴 | 年　月 | |
| | 年　月 | |
| | 年　月 | |
| | 年　月 | |

注1．※は記入しないこと。
注2．修士論文要旨記入欄が足りない場合は、裏面の備考欄に記入のこと。
注3．合否通知書等受信先は必ず記入のこと。

※記入された個人情報については、東北福祉大学大学院入試業務のために利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 修士論文題名 | | | |
| 修士論文要旨<br>(修了見込者も必ず記入のこと) | | | |
| アルバイトの必要性 | 有　　無 | 修了後の進路・目標 | |
| 外国語(英語)の免除 | 有　　無<br>(詳細については、出願書類提出注意事項一覧を確認してください) | | |
| 免許・資格 | | | |
| 長期履修制度の利用 | す る　・　しない<br>(詳細については、P. 39 を確認してください) | | |
| 備　考 | | | |

注1．すでに大学を卒業している志願者は学部の卒業論文（コピー可）を提出のこと（作成者のみ）。
注2．大学卒業見込の志願者は卒業論文の概要を所定の欄に記入のこと（作成者のみ）。

振込受付証明書

貼付

〔博士課程〕
〔社 会 人〕

# 2025 年度

## 東北福祉大学大学院総合福祉学研究科入学志願票

受験番号※

年　月　日

**東北福祉大学長　殿**

氏名（ふりがな）　印　（男・女）

生年月日（西暦）　年　月　日生（満　歳）

貴学大学院総合福祉学研究科社会福祉学専攻博士課程入学志願につき所定の書類を添え出願いたします。

写真
3 cm × 4 cm
上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもので、写真裏面に出身大学名および氏名を記入のうえ全面糊付すること。

年　月　日撮影

| | | |
|---|---|---|
| 入学資格 | 国立・公立・私立　大学院　研究科　専攻<br>年　月　日　修了・修了見込 | |
| 現住所 | （〒　） | TEL　（　）<br>携帯　（　）<br>E-mail |
| 帰省先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 勤務先名 | 部　課<br>（職名） | |
| 勤務先住所 | （〒　） | TEL　（　） |
| 合否通知書等受信先 | （〒　） | TEL　（　） |
| 本人の履歴 学歴 | 年　月 | 高等学校卒業 |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学 入学 |
| | 年　月　第　学年編入 | （編入学の場合記載してください） |
| | 年　月 | □専門学校 □短大 □大学 卒業 |
| | 年　月 | 大学院入学 |
| | 年　月 | 大学院修了・修了見込 |
| | 年　月 | 高等学校卒業程度認定試験 大学入学資格検定試験 合格 |
| 本人の履歴 職歴 | 年　月 | |
| | 年　月 | |
| | 年　月 | |
| | 年　月 | |

注1．※は記入しないこと。
注2．修士論文要旨記入欄が足りない場合は、裏面の備考欄に記入のこと。
注3．合否通知書等受信先は必ず記入のこと。
※記入された個人情報については、東北福祉大学大学院入試業務のために利用するものであって、その他の目的に使用することは一切ありません。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 修士論文題名 | | | |
| 修士論文要旨<br>(修了見込者も必ず記入のこと) | | | |
| アルバイトの必要性 | 有　　無 | 修了後の進路・目標 | |
| 外国語(英語)の免除 | 有　　無<br>(詳細については、出願書類提出注意事項一覧を確認してください) | | |
| 免許・資格 | | | |
| 長期履修制度の利用 | す る　・　しない<br>(詳細については、P. 39 を確認してください) | | |
| 備　考 | | | |

注1．すでに大学を卒業している志願者は学部の卒業論文（コピー可）を提出のこと（作成者のみ）。
注2．大学卒業見込の志願者は卒業論文の概要を所定の欄に記入のこと（作成者のみ）。

振込受付証明書

貼付

# 志 望 理 由 書

東北福祉大学大学院総合福祉学研究科

受験番号※

※記入しないでください

# 志 望 理 由 書

【作成上の注意】
Ⅰ．自筆またはパソコン可。
Ⅱ．パソコンの場合は、P21またはP23を参照のこと。
Ⅲ．次の項目を中心に記入のこと。　①志望動機　②将来の進路志望
③入学後の目標と抱負

| | | | |
|---|---|---|---|
| 志 望 す る<br>専攻・分野名 | 社会福祉学専攻(修士)・社会福祉学専攻(博士)<br>福祉心理学専攻(修士)（福祉心理学分野）<br>（臨床心理学分野）<br>＜専攻・分野に○をつける＞ | ふりがな<br>氏　　名 | |

（左右22字×天地22行＝484字）1

# 志望理由書

2

（左右22字×天地28行＝616字）

# 志望理由書

| ふりがな | |
|---|---|
| 氏　名 | |

（左右22字×天地28行＝616字） 3

# 志望理由書

4

（左右22字×天地28行＝616字）

# 研 究 計 画 書

**東北福祉大学大学院総合福祉学研究科**

| 受験番号※ |
|---|
| |

※記入しないでください

【作成上の注意】
Ⅰ．自筆またはパソコン可。
Ⅱ．パソコンの場合は、P21またはP23を参照のこと。

# 研 究 計 画 書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 志望する専攻・分野名 | 社会福祉学専攻(修士)・社会福祉学専攻(博士)<br>福祉心理学専攻(修士)（福祉心理学分野）<br>（臨床心理学分野）<br>＜専攻・分野に○をつける＞ | ふりがな<br>氏　名 | |

研究テーマ（　　）

研究計画

（左右22字×天地20行＝440字）

# 研 究 計 画 書



（左右22字×天地27行＝594字）

# 研 究 計 画 書

| ふりがな | |
|---|---|
| 氏　　名 | |

（左右22字×天地27行＝594字）

# 研 究 計 画 書



（左右22字×天地27行＝594字）

# 研 究 計 画 書

| ふりがな | |
|---|---|
| 氏　　名 | |

（左右22字×天地27行＝594字）

# 研 究 計 画 書



（左右22字×天地27行＝594字）

該当者のみ

# 職 務 経 歴 書

| 志望課程 | ○印をつけること |
|---|---|
| 修士課程出願用（社会人） | |
| 博士課程出願用（一　般） | |
| 博士課程出願用（社会人） | |

| 受験番号 | ※ |
|---|---|

※記入しないでください

# 職務経歴書

年　　月　　日

氏名　　㊞

| | 勤務期間 | 勤務先 | 主な職務内容 |
|---|---|---|---|
| 職歴 | ～ | | |
| | ～ | | |
| | ～ | | |
| | ～ | | |
| | ～ | | |
| | ～ | | |
| | ～ | | |
| | ～ | | |
| | ～ | | |
| | ～ | | |

研究計画に関する過去の職務内容

研究業績等【論文、報告書（社内報を含む）、口頭などの発表があれば、その題名、発表機関、発表年月などを記入】

東北福祉大学大学院

# 2025年度　東北福祉大学大学院　住所票（合否通知書等送付用）

本票は、合否通知書等（入学手続等を含む）の送付用として使用するので、あなたの住所「合否通知書等受信先」、氏名および郵便番号を正確に記入の上、忘れずに出願書類と一緒に提出してください。

● ①、②、③とも、同じ住所等を記入してください。

①

| | | | |
|---|---|---|---|
| 合否通知書等<br>送　付　先 | 〒　　－ | 受験番号 | ※ |
| | | | 様 |
| 志望専攻・分野名 | 修士課程・博士課程（　　） | | |

②

| | | | |
|---|---|---|---|
| 合否通知書等<br>送　付　先 | 〒　　－ | 受験番号 | ※ |
| | | | 様 |
| 志望専攻・分野名 | 修士課程・博士課程（　　） | | |

③

| | | | |
|---|---|---|---|
| 合否通知書等<br>送　付　先 | 〒　　－ | 受験番号 | ※ |
| | | | 様 |
| 志望専攻・分野名 | 修士課程・博士課程（　　） | | |

◆ 太枠内は全て記入してください。

◆ 太枠内の修士課程・博士課程区分のいずれか一方を○印で囲み、（　）内は専攻分野名を記入してください。

◆ ※欄は、記入しないでください。

キリトリ